

# 東北公益文科大学

## 総合研究論集

第25号

資料紹介

山形県立自治講習所日誌(第五回)——大正十一年

三原容子

二〇一四年二月二〇日発行

## 山形県立自治講習所日誌（第五回）——大正十一年

三原 容子

筆者はこれまで山形県立自治講習所について、左のような論考を発表してきた。

・「山形県庄内地方の産業組合運動と満州移民送出運動の思想―皇国農民団を中心に―」『東北公益文科大学総合研究論集』第十八号、二〇一〇年七月

・「山形県庄内地方の農業倉庫建設運動と加藤完治」『農本思想の現代的意義に関する研究（課題番号二〇五八〇二五二）平成二〇一二年科学研費補助金基盤研究（C）研究成果報告書』二〇一一年三月所収

続けて、『東北公益文科大学総合研究論集』の各号に自治講習所資料を判読紹介してきた。

・第二十号（二〇一一年七月）：一九一六（大正五）年

の第一期生の日誌

・第二十一号（二〇一二年一月）：一九一八（大正七年）の第三期生と短期講習生の両日誌

・第二十三号（二〇一三年一月）：一九一九（大正八年）の第四期生「日誌」、同年の第三回短期講習生「日誌簿」、同年から翌年にかけての第五回長期講習会「日誌」（大正八年十一月二十日～大正九年四月二十六日）

・第二十四号（二〇一三年九月）：大正九～十年の第一組、第三組、第六組の日誌

今回はその続編として、大正十一年一月二十一日から五月一日までの日誌（山形市内の自治講習所）と、同年五月六日から十一月五日までの日誌（大高根開墾地）を

紹介する。

なお、刊行後に見つけた誤記等については、ウェブサイトに示すことにしている。「ようこそ三原研究室」で検索して「ようこそ三原研究室@ネットへ」から「著作物リスト」をご覧いただきたい。前年（大正十年五月（十一月）の「大正十年度 労力記入簿」には、五十一名の出勤状況、作業状況が克明に記されているが、参考の為に、同じサイトに掲げておく。「日誌」と合わせてご覧いただきたい。

凡例（一）内はすべて三原による）

・変体仮名はすべて現在の平仮名に改め、必要に応じ句読点を入れた。片仮名と平仮名は原文通りである。濁点のない仮名はそのまま、なまりによって濁点がついている箇所もそのままにしてある。

・誤りと考えられる文字の後に正しいと思われる文字を（一）内に示したところが一部にある。不明箇所は□とした。

・人名を除き、旧字体は新字体に改めた。「全」は「同」

とした。「次郎」と「治郎」、「利八」と「利蜂」等、記載のままにしてある。

・表紙の文字と日付、曜日のみ太字表記とした。

・くりかえし記号（「く」の長いもの）は文字を繰り返して記した。

#### ①〔表紙〕日誌 自治寮7

一月二十一日（土）午前晴、午後風、雪 山口康太郎

起床五時、前組掃除、後組武道、六時十分迄。朝食七時、朝の勅語奉読は一組より順次すること、なる。八時半より道場にて高野先生から皇国運動の御講話、十時四十分迄、十一時頃より太田先生の養豚のお話、正午十二時まで。昼食十二時半、午後休、帰省十三名、不自由品持者多数。

一月廿二日（日曜日）雪、工藤政五郎

起床第五時、全組掃除を成し、後に高野先生より一同皇国運動ありて六時半に終わりたり。朝食第七時、昼食第十二時、夕食第五時、第七時より九時迄自習黙読。第九

時寝床。

一月廿三日（月曜日）結城庫太

起床五時、前組武道、後組掃除。朝食七時、八時半より高野先生に食物を良く噛みこなして食ふ事の注意あり。九時より農学大意、拾時半より加藤所長の農村経営の御講話、昼食正午、午後一時半より掃除、四時より柔道、夕食五時廿分。

一月廿四日（火曜日）曇少雪、長谷川文六

起床五時、前組掃除、後組武道。朝飯七時、八時半より所長殿より農村経営の御話ありたり。十時より阿部課長殿の自治制度に於いての御話、十一時半過ぎ昼飯、午後一時より農事試験場長より土質と肥料の御話あり。三時半より前組柔道、後組実習（ナワナイ）。五時半夕飯、七時より道場に於いて茶話会開く。先づ先生達より名乗り合ひする。それが終れば役員選挙す。所長殿御出で遊し色々面白く談笑す。御菓子は皆んながしばらく食べた事が無いのか、皆んなをいしさうに食べて居る。閉会は十時十分頃でした。それから皆各自の室へ帰へり寝に着く。

一月式拾五日（水曜日）薄曇（午后午前）〔「午前」の右横に「午后」と追加〕佐藤利八

起床五時、前組武道、後組掃除、午前六時迄。朝の礼拝を終えて朝飯七時三拾分なりき。八時三拾分より高野先生の農学大意の講話、拾時四拾分迄。二拾分休息し拾一時分（「ママ」長曾我部地方課長〔「地方課長」を赤ペン二本線で消し、「さん」と訂正〕より産業組合に関する講話有りたり。拾式時迄。拾式時三拾分昼飯ヲナス。一時間休息し午后一時三拾分より所長殿より皇国精神に就いて講話有りたり。午后三時三拾分迄。実に頭に沁み込みたり。午后四時より全部武道。所長殿の武道訓話ありたり。五時迄。六時三拾分夕食をなしたり。午后七時より一時間八時迄。樺太庁よりはるばる御出での名士より殖民に関する有益な御話有りました。九時寝に就く。午後七時の汽車にて所長さん上京と承る。完。

一月式拾六日（木曜日）曇小雪、松田秀治

起床五時、前組掃除、後組武道、午前六時半迄。礼拝を終へ朝飯は午前七時なり。八時四拾分より高野先生の農学大意の講話あり。拾時拾分迄。式拾分休息し拾時三拾

分より有吉学務課長の法制の講話あり、正拾貳時迄。昼飯を食し午后一時三拾分より參時三拾分迄習字あり。三時三拾分より夕食迄自由に勉強柔道をなし、又用事ある人は外出を許されたり。六時夕食をなし七時より黙読にうつり、九時礼拝して寝に就く。

一月廿七日（金曜日） 天気曇后晴、小野勝彌

起床五時二十分、前組武道、后組掃除。礼拝午前七時、八時半より九時迄自治寮生活上に就ての注意あり。拾時迄農学大意（高野先生）、拾時拾分ヨリ所長先生ノ植物学ノ講義あり（十一時四十分迄）。昼飯拾二時拾分、午后一時半より県農会の菊地さんより養鶏の講話あり（二時四拾五分迄）。今日風呂がたつ。午后九時寢就。

一月廿八日 土曜日 晴後曇（佐藤昌一）

起床五時、前組掃除、後組武道。朝飯七時、八時半より拾時半迄師範学校教員仲澤先生の地理学の講義あり。十分休息し十時四拾分より県農会の大田先生より養豚ノ講話あり（十二時十分迄）、十二時四十分昼飯、一時十分より養豚講話続き、二時二十五分迄、其レヨリ土曜日ニ付キ随意、旧正月元日ノ為メ近郷ノ生徒帰宅ヲ急グ。夜

黙読無し、九時礼拝就寝。

一月廿九日 日曜日 朝稍々晴後曇（斎藤太吉）

起床五時半、前組武道、後組掃除。朝食七時半、昼食壹時參拾分、夕食六時。七時より黙読、九時迄。礼拝就寝す。

二月卅日 月曜日 佐藤吉之助

五時起床、前組武道、後組掃除、七時朝食、第一校時農学大意、第二校時農学大意、十二時四拾五分昼食、第三校時は休業、第四校時自治制度、四時半より地方課長と全部柔道す。六時夕食す。七時より九時迄黙読、九時礼拝、就寝す。終り。

一月卅一日 火曜日 大場儀一郎

五時起床、後組武道、前掃除。午前中農学大意講義、午後より本館寄宿舎全部の大掃除を行ふ。三時頃より柔道撃剣を実習す。今日又風呂あり。一同共に清々の気分を味ふを得た。遺憤〔憾〕なるは風引、頭痛者の続出である。九時神前に礼拝安らげく眠りにつく。

二月一日 水曜日 晴 貝沼孝義

五時起床、前組ハ武道、後組ハ掃除、六時半礼拝シ食事

ヲ了ス。八時半授業開始シ、憲法大意ヲ筆写ス。拾時□  
〔一〜二字分空き〕ヨリ式時間、有吉理事官ノ法制講義  
アリ。午後一時半ヨリ横田林業技手〔ママ〕ノ林業大意  
講義アリ。同三時ヨリ柔道、実習、五時授業終了。午后  
七時ヨリ事務室ニ於テ食費ヲ徴集ス。九時寝就。午後北  
谷地ノ青年拾六名見学ニ来ラレ高野先生ヨリ農業上ノ講  
義ヲ受ク。

二月二日 木曜日 晴 大沼謙一

朝五時起床洗面し、前組ハ掃除、後組ハ武道ナリ。後礼  
拝し、七時半食事アル。八時半講堂ニテ高野先生ノ農学  
大意始マリ、後、長蘇我部氏の産業組合ノ講義アリ。日  
和新春ノ気充チ満チテ豊閑ナル農村ノ新正ヲ連想スルニ  
好適ナルそらあひなり。正午頃六期生来ルアリテ、午後  
ニ相談会ヲナセリ。尚、南村山郡々々主催ノ中堅青年講習  
会ノ講習生等、正午頃ヨリ来集セリ。本所生ハ午後三時  
頃ヨリ武道ヲ始ム。所長ノ武道ニ対スル注意アリ。五時  
半武道了レリ。六時過ギ晚餐ヲキツス。長期生短期生ノ  
二回ニ別レテ食セリ。食後短期生ニアリテハ茶話会ヲナ  
セシガ、吾人等ハ自習或ハ湯浴ニ行キヌ。晴夜ニシテ星

斗爛々タレド、例ノ如ク余等ハ短期生と俱ニ講堂ニ集マ  
リ礼拝スル。時正ニ午後九時ナリ。後、短期生ハ道場ニ、  
生等ハ各室ニどよめく眠ニ就キヌ。

二月三日 金曜日 雨 古沢源徳

五時起床、前組ハ武道、後組ハ目読、短期生ノ甲組ハ武  
道、乙組ハ掃除。本日ヨリ短期講習会開会ス。短期講習  
中短期生、掃除ト炊事ヲスルコトニセリ。長期生ハ高野  
先生ヨリ農学大意、午前八時半ヨリ十時迄。十時二十分  
ヨリ加藤所長ノ植物学ノ講話アリ。午食令〔零〕時半、  
午後二時ヨリ松田地方指導ノ青年ニ付テノ講話アリ。面  
白ク且ツ感シル処アリタリ。四時半ニ終ヲ告ゲリ。夕食  
六時。九時ノ礼拝シ床ニ付ク。

二月四日 土曜日〔雪〕川崎光雄

五時起床、前組目読、後組ハ短期生ノ乙組ト武道、掃除  
ハ短期生ノ甲組。七時ニ礼拝シ短期生ヨリ朝ノ食事ヲ了  
ス。午前八時ヨリ十時迄師範学校ノ中澤先生ノ地理講義、  
十時半ヨリ十二時迄ハ短期生ト共ニ松田地方指導ノ講話  
ヲ聞ク。昼飯十二時過ギ県会議事堂ニ行キ午後一時ヨリ  
帝国農会ノ山崎遠〔延〕吉先生ノ現時社会ノ現象ト農民

覚悟ト云フ講話ヲ短期生ト共ニ聞キタリ。三時半終、四時ヨリハ柔道、五時半長期生ヨリ夕食、七時ヨリ目読、九時ニ礼拝シ後床ニ付ク。

二月五日 日曜 晴 森谷

起床武道礼拝、例ノ如シ。午前八時ヨリ山崎延吉先生、当所ニ於テ講演アラセラル。生等短長生共ニ聴講ス。先生曰ク生産ノ三要素ハ旧来ノ如ク土地資本勞力ニ非ジシテ、進ミタル今日ニ於テハ、天時、地利、人和ニ依ルコトナル事ヲ説明セラレタ。十時半ヨリ所長ノ農村経営ノ講演アリタリ。午后一時ヨリ県会議事堂ニテ一同山崎先生ノ講演ヲ聴ス。午后四時半帰所、定時黙読礼拝就寢。

二月六日 月曜日 晴 遠田

定時起床、短期生居るに付き長期生は半分武道、半分自習。七時礼拝例の通り。八時半より昼迄加藤先生の農村経営講話、村の改善方法より家の改善方法に及び、其れより進んで農業経営方針勞力分配に入る。午后一時より約一時間県の梅本学務課主事の感情熱の必要なる所以の御話しあり。式時半よりは一同武道、加藤先生師範下に練習す。五時半食事、七時より黙読、九時礼拝消灯。

二月七日 火曜 晴 佐藤正太記

五時起床、五時半ヨリ甲組武道、所長先生御出ニナリテ真劍ノ気タゞヨウ。例日ノ如ク七時礼拝、八時半ヨリ所長先生ノ農村経営ノ御話、十一時ヨリ弥栄ノ説明アリ。長短両生聴講ス。今日限りニテ一先ズ短期講習ハ終ヲ告グ。十一時四十分講堂ニテ終了式アリテ閉会ス。午後大掃除ヲシテ休ム。四時頃東村山郡ノ短期生三十六人、各々夜具ヲ背負ヒテ來ル。定時目読礼拝シテ就床ク。

二月八日 水曜 曇 鈴木謙二記

起床は五時、短期生二組に分れて武道及掃除をなす。長期生は各自自習せり。七時に礼拝終りて朝食をなす。八時半より法制の筆記、十一時より長期短期一同講堂に集り有吉学務課長の講話を聴く。有吉氏は我国の国体と諸外国の国の成立ちとを比較し以て比類なき我が国の国体を講演せらる。午後も又法制の筆記にして短期生は武道の練習なり。五時半に夜食し七時より黙読、九時に礼拝し、後床に就く。

二月九日 木曜日 曇り 柏倉

起床時間、前日同断、短期生ハ二部二分レ掃除ト武道ヲ

ナス。六時二至り長期生ハ高野先生引率ノ元ニ約二里九丁駈走競争ヲセリ。往復四十五分ニテ帰所、七時礼拝シテ食事ニ移ル。午前中ノ学科ハ憲法ノ筆記ト農学大意トス。正午昼食、午后ハ武道ニテ終ル。五時半ニシテ夕食、例ノ通り七時ヨリ黙読時間、九時、又礼拝シテ消灯。大張り〔オワリ?〕。

二月十日 金曜日 晴 富樫廣三

起床五時、長期生ハ昨朝ノ如ク駈走ヲ為シ短期生ハ二組ニ別レテ武道ト掃除ヲ為セリ。朝ノ食事及ビ礼拝ハ昨日ト同ジ。八時半ヨリ学科授業開始、最初高野先生ノ土壤学ノ講義アリ。次ニ横田先生ヨリノ林学ノ講義アリタリ。午后ヨリ長期生一同ハ各村ノ経済状態調査ノタメ明日ヨリ約七日間ノ帰宅ヲ命ゼラル、ソノ一部分ノ生徒ハ只チニ帰宅ノ途ニ就ケリ。

二月十一日 土曜日 晴天 稲垣記

午前五時起床、或る数名のものは停車場方面に駈走を試みたり。長期生は昨日より一週間の休暇を得たる為、今朝一名残らず全部帰郷す。故に授業なし。今日は皇紀二千五百八十二年の紀元節なれども特別の式行はれざりき。

二月十二日 日曜日 雨後晴 内藤記

定時起床。外は一面肅々たる微雨なり。長期生帰宅中なれば舎内は寂寞として何となく物淋し。午後東村山郡短期講習終了式あり。式終つて一同三々五々帰村の途につく。夕刻より村山会主催の短期講習生陸続来所、非常なる混雑を呈し居れり。

二月十三日 月曜日 晴天 成澤記

起床ハ定時、本日ヨリハ愈々村山会主催ノ短期講習ニテ会員ハ一百八拾余名、長期ノ残り合シテ二百余人ノ人数ニテ、便所行キ頗ル困難ヲ感ジタリ。会員ヲ三組ニ分ケ、朝ヨリ武道アリ、皇国運動アリ。所長ノ才話アリテ種々ナリ。食事ハ三度。宮ノ餅ノ弁当ナリ。朝食后ハ所長、高野先生ノ才話、武道等、夜ハ学務課ヨリ課長来リ活動写真アリ。写真ハ東宮殿下御渡欧ノ写真ニテ課長自ラ弁士トナリテ巖然トシテ画面前ニ立ツ。終ツテ天皇陛下皇太子殿下ノ弥栄ヲ三唱シテ終ル。第十時半就床ス。カクシテ短期講習第一日モ過ギタリ。

式月十四日 火曜日 曇 村上記

朝起床五時半、午前中所長の御講話拾壱時半より舞鶴司



令長殿の小栗中將の御講演、午後高野先生の甘藷栽培に  
関する講話。参時半より皇国運動並に武道に分れたり。  
晚七時より約一時間に亘りて旅団長閣下の御講話有りた  
り。寄宿に於ても其他に關しても別段の事なし。

二月十五日 水曜日 曇り 鈴木記

起床五時、八時半ヨリ森本閣下ノ講演アリ。次ニ所長ノ  
講義。短期生ニハ記念ノ撮影ヲナス。午後内務部長ノ講  
演、夜七時ヨリ地方指導ノ講演アリ。

二月十六日 木曜日 鈴木記

朝五時起床、一同道場ニ於テ弥栄三唱ノ本ニ村山会ノ終  
了ヲ告ゲ、朝食ニハ豚肉ノ御馳走ニテ三三五五ト家ニ帰  
ツテ行ツタ。長期生ノ残員ニハ所長ノ御目玉ヲ頂戴シテ  
自治寮ト事務室及講堂道場ノ大掃除ヲ行ツタ。午後ハ一  
同柔道ヲ行ツタ。

二月十七日 金曜日 晴 石山生

朝六時起床、好天氣に本日は休みにて、各自任意に外室。  
后後一同柔道を行り所長さんより御習した。夕方になつ  
て講習生の帰寮者も勃々見えた。七時より自習、九時礼  
拝消灯。嗚呼今日は心も浮き立つ程の春日和であった。

二月十八日 土曜日 雲 原田九藏

朝六時起床、前組武道、後組掃除。七時例の通り講堂に  
テ礼拝、弥栄三唱して朝食、午前地理、所長ヨリ熱烈な  
る訓話あり。高野先生の土壤学、午后は所長が出席して  
武道、夕食は六時。嗚呼本日は所長よりの訓言には大に  
感じて万感旨〔胸〕を圧した。九時礼拝消灯。

二月十九日 日曜日 晴

朝定刻に起床、襖を行つて掃除をした。七時に礼拝して  
食事を了へた。八時より武道ヲ行り十時半迄、后後に三  
三五五外出者あり。南郡西山郡より見習生が入り夕食六  
時、九時に礼拝して消灯す。

二月二十拾日 月曜日 晴 阿部記住

定時起床、全部襖ヲナス。前組掃除、后組武道。午前七  
時朝礼朝食。午前八時ヨリ拾時拾分休息し、拾二時迄高  
野先生ノ土壤学講話アリ。正午昼食。午后一時ヨリ四時  
迄荒木講師ヨリ桑樹栽培ニツイテ講話アリ。其ノ后組分  
ケシテ大掃除ヲナシタリ。高野先生ノ便所掃除ニハ実ニ  
感服致シマシタ。午后六時夕食ノ時ノ臭氣プンプン鼻ヲ  
突ク御肴ノ御馳走ニハ、イヤハヤ恐入ツタ。九時礼拝消

灯ス。

二月二十一日 火曜日 晴天 小野記

定刻起床、七時礼拝、午前中高野先生の土壤学の講話、午后農事試験場に行く。三時過□□〔掃除?〕随意柔道をやる。短期講習生三拾名程と来る。九時礼拝後就床す。

二月二十二日 水 晴 五十嵐

襖 湧々と流る、小川時ならぬ瀧の音□〔生?〕づ水玉空中に飛ぶ

武道 熱誠こめた真剣の掛声校内に響き、コマクピンびんたり。その勇声段々として春霞の中に消え去る。あ、実に愉快ナラズヤだ。

食後短期生の半煮飯に預る。

学課 一校時憲法筆記春陽浴け入り気うとうとの状態。

二校時長蘇我部産業組合。三校時高野先生の北海道生活実懐談。中にも大自然を相手にかなり専心一意級

〔汲〕々として働くの様は吾等青年の熱血を舞らした。

四校時一同実習縄なひ、時正に太陽は山の陰よりゆるやかな光を投げて居た。七時頃加藤所長来所。黙読礼拝例

の如し。以上二月二十一日依如件〔よつてくだんのごとし〕。

二月二十三日 木曜日 梅津記

起床午前五時。静かに見舞ふ雨之音、暗を破りて聞ゆるキテキの声又陰鬱の中にも春の長閑さを覚ゆ。西山白雲峰頂を擁して市中に柵引く水蒸気見ゆる。二三の残星弱き光りを投げ出して立ち昇る。白煙静かに西北になびきて実に鬱々たるを覚ゆ。雲の切れ間に見ゆる青天、前途の好晴をトせらる。一同襖。五時半より前組は武道、後組は短期生の一部と共に掃除、残りの一部は皇国運動、七時神に礼拝して朝食、午前八時半より学課、短期生には道場に於て所長の講話を聞く。長期生は講堂に於て農学大意。十一時より短期生と長期生の教場交換あり。短期生には不行跡の門之有りしたため昼食を食すことを得ず。学課終りて直に武道。四時に至りて漸く飯に有り付く。其の味又特別なりしなり。一部の者のために全部が其の責めを受く。心すべきなり。天気案の如く好晴と変り雨、後の天気は特別なり。午后三時まで農学大意、四時より希望者のみの柔道あり。七時より黙読、九時礼拝、時に

所長より黙読時間には出来得る限り外出せざること、飯事の薪炭に対する訓示あり。終りて就床、時に天気又も泣き出しそうなり。終り。

二月廿四日 金曜日 黒田記

起床五時、空未だ薄暗し。一同禊を行ふ。前者は武道、後者及び短期生館内掃除。七時礼拝、時に所長の掃除に對する注意ありて后朝食、午前八時半より授業。長期生は植物、短期生高野先生の講話。同拾時半より長期生の林学、短期生の所長の講話、午后一時半より長期生習字、短期生は所長の講話、同三時半より長期生実習、一部堆肥切反し、一部は繩縋ひ、六組は風呂当番、短期生は武道、七時黙読、九時礼拝后就床。

二月廿五日 土曜日（晴） 山口記

起床五時、薄暗き中を滾々と流るゝいさゝ川の流れを汲みて一同禊して清明心をいや榮へせしむ。五時半より前組武道六時半迄。同時四十分に礼拝。七時半朝食、納豆、八時半授業、中沢先生の地理、欧州戦争の原因及び其の結果、新建国の理由、チエク独立の困苦艱難、犠牲的精神ハ吾人の取つて学ぶべき点なりと。終つた時八十時。

十一時より高野先生の土壤学、養鶏の菊地先生が未だお見えにならないとあつて十二時迄、筆記及講話。十二時半昼食、宮ノ餅の弁当。長期生午后休み、然し明日ハ不<sub>断</sub>〔普段〕通り授業あると外室多数、春気洋々として天地に允つる。此頃ちつとして室内にはかり居られないと見へて。

短期生ハ武道、夕食五時四十分、豆腐大根汁。七時二十分より長期生短期生合同して道場にて茶話会を催した。加藤先生から有益なる事実修養談あり。円滑のお話偶々人の頤を解く、時の移るも知らざる中に九時となる。直ちに礼拝後就床。終り。

式月廿六日 日曜日（雲） 工藤記

定時起床、未だ薄暗き舍外は初春の冷かな曇勝である折柄、一同は禊を成す。長期生一同は武道六時半迄で、定時礼拝。第七時油揚大根汁にて朝飯を食す。第八時半より長期短期生一同講堂に於て農村経営に就き皇国精神の農村の改造理想、信仰の確立、勞力分配の必要を述べ有益なる講話あり。拾式時半迄で昼食宮の餅の弁当。午後第二時より所長の農村経営の講話ありて終りに飽海郡短

期生の弥栄を唱へた。時は午後三時、第六時夕食、第九時礼拝、終りて寢床に着けり。

二月廿七日 曇 月曜日 結城記

定時五時起床、七時礼拝、短期早く長期生後二朝食、昨日換り本日休ミ。九時頃ヨリ柔道、拾貳時午食、午後放課自由、短期生武道、夕食五時半、九時礼拝ノ後二就床消灯。同日飽海郡短期生半数帰省せり。且亦同日は北風吹いて寒かつた。長期生にも帰省せるもの有りき。夜少し雪降る。完。

二月廿八日 曇後晴 火曜日 長谷川記

五時起床、今朝は何日もより寒気厳し。五時半前組武道、後組掃除、七時礼拝。七時半少し多かつたが短期生と一緒に朝飯。飽海郡の短期生は午前中帰省、八時高野先生の土壤学、十時より所長先生より農村経営の御話、十二時少し前終りたり。午後からは荒木先生よりの桑樹改良栽培の御話、三時より又続けて同仕立方の御話、それより希望者の柔道、六時夕飯、七時より黙読時間、九時礼拝、後就床せり、消灯。

三月一日 水曜日 午前拾時マデ小雪降ル 午后曇少雪

定時起床未だ薄暗キ舎外二出デ見レバ空ハドンヨリト曇ツテ星ノ影一ツ見エナイ。雪花翩々トシテ降りシキツテ居ル。時々ハ葉モナキ万樹ヲフルワス様ナ寒イ風ガ吹イテハ窓ヲガダガト打ツ。近頃ニナク寒気厳シク丸裸ニナツテ褌ヲナス時、体ノ骨ノ中迄底冷エスル様デシタ。然シコ、ガ日東ノ男子ダトバカリニ勇氣ヲ鼓シテ褌ヲナセリ。炊事当番ノ早起キニハ感心シタ。起床シタノハ四時拾分前ダツタ相ダ。後組武道、前組掃除、但シ定時マデ。七時礼拝、朝食、高野先生御勅語御奉読ナシ下サツタリ。八時ヨリ授業始マル。高野先生ノ土壤学講話拾時マデ。拾時三十分ヨリ有吉学務課長ヨリ憲法大意ノ御話ガアツタ。終ツタノハ午前拾一時五拾分ナリキ。午前八時頃雪ハハレテ雲ノ端ニ金色ノ光ヲ含ンデ輝キ出デシ暁且ノ陽ノ如クサツト輝キ出デタノデ喜ンデイルト、正午近く又モヤ薄暗ク雲ニ包マレタ。正拾二時ニハ昼食ヲナセリ。正午過ぎ又モヤ雪ハチラチラト降ツテ来タ。午后一時四十分ヨリ組分けシテ大掃除ヲナシタリ。終ツテ柔道ヲナシ午後五時五拾分夕食ヲナス。雪全クハレテ紫雲二、三片浮ビ□タリ。一同入浴ヲナシ黙読時間、定時礼

拝消灯。夜ノ空ハカラリトハレテ幾百ノ星ハピカリピカリ光ツテ居タ。完。佐藤 〓記

三月二日 水曜日 晴天 □□記

春——？ 日月矢の如と申した処で決して古るいことばであるまい。今は実をうたつて居るのだ。五時起床襦の音ざーっ、武道と掃除と別れて各々其の分担により其の職務を尽した。間もなく時間が始まる。外を見ない気でも外が見える。もう訪れた春にさそはれる。目には左の様な現象が見える、浮かぶ、凧（凧？）が飛ぶ。う□□□りがついて、無邪気な子供等が面白そうに、等しく幼児を思ひ起こされるが、今はそう時代ではない□？

此の惜春の気持の動かされる時に於て、此の尊き理想の修養処講習所に於て武道の誠心を以て皆々血湧かし肉おどらす。国家憂国の士とならん希望を以て立たん？ 潔い大和魂を以て立たん。分担の各々の本務を尽くして立たん？ 夜九時一同礼拝、床に着く。

三月三日（金曜日）晴 松田記

定時に起き襦をし、分担によりて掃除武道をやり、午前七時礼拝して朝飯を食す。午前八時より土壤学の講義あ

り（午前拾時迄）。十時二十分より加藤先生の農村経営の日本農業の特質に付ての御話あり。終つて昼飯を食す。時に正十二時十分。午後一時半より吉川先生の歴史あり、三時迄。三時二十分より五時迄武道、木劍、直心影流の法定四本目迄練習。夕飯午後六時なりき。八時より加藤先生の武道の御話を承はる、九時半迄。一同礼拝して床に就く。

三月四日 木曜日 雪 小野記

フウワリフウワリした淡雪が拾時頃から本物になって降り出した。昨日までほかほか暖かい長閑な春日和だつたのに、今日は雪降り。――萌え出した木の芽、竹の芽がとんなに驚いた事だらう。陰鬱な空、牡丹雪――自然は急に冬に戻つた様な気がする。午后には地上総てが雪に覆はれた。自然、あゝ人間は永久に自然を征服する事は出来ないであらうか――

八時半より中沢先生の地理、正午迄所長先生の農村経営、午后一時半より高野先生の農学大意、三時半より柔道隨意、夜八時より所長先生の武道の講話あり。拾時半礼拝就寝。

三月五日 日曜日 佐藤記

五時起床、各自禊ヲナス。武道ト掃除。七時礼拝、我々ハ君が代合唱、天皇陛下ノ弥栄ヲ三唱ナス時ニ於テ真ノ喜ビヲ感スル……朝食。

午前八時ヨリ九時十分迄高野先生ノ肥料学、九時十分ヨリ十時五十分迄南置賜ノ短期生四名ニ加藤先生自ラ木劍ヲ御教導下サルヲ長期生一同拝見、大イニ得ル所アリタリ。

午後二時ヨリ秋田県カラ来所シタル佐藤君ノ農業経営ノ質問ヲナシタルヲ聞ク。加藤先生ノ御答へ、我々ノ農業ヲヤル上ニ於テ参考ニナリタル所多シ。六時夕食、九時礼拝就寝。

三月六日 月曜日 藤田記

五時起床の合図が勇しく響き渡った。纏て禊が始まる。其真剣な態度には神々しい気分がする。武道と掃除と二組に別れてなし、武道は既に四本目を了へて練習。七時礼拝朝食。八時授業開始、所長上京の為め時間割を変更して農学大意習字自治制度（阿部地方課長）と一。放課後は柔道随意。明日休日に付き黙読なし。八時半礼拝、

後ち寝に就く。

三月七日 火曜日 佐藤生

本日五日日曜練下ニテ休業ス。五時起床武道掃除、朝食七時、正后昼食、五時半夕食、七時ヨリ九時迄黙読、礼拝就寝。

三月八日 水曜日 斎藤生

五時起床、武道と掃除、七時朝食、八時三十分より高野先生の肥料学講義、十時より長曾部氏（ママ）の産業組合につき御講義あり。后後又も肥料学講義あり。三時半より前組及び短期生の木劍、後組実習、五時半に夕食、例により七時より黙読。九時礼拝にて無事床につきにけり。以上終。

三月九日 木曜日 晴 大場儀一郎

五時起床、舍外は未だ薄暗く薬師堂の老木、藍色の東山水蒸気に包まれたる□形市、未だ睡より覚めざるなり。だが□……の五十の健児、清き小川に禊しおるを見るべし。前例により武道掃除を行ふ。八時授業開始。背後に新春の御光に浴し、神前に向ひ高野先生の肥料学、続いて十時より同、午後より高野先生の天は自ら助くる者

を助くを言頭に丁抹〔デンマーク〕農業の実況の講話あり。我等をして感動せずんば止まざりき。三時より五時迄一二三輩仕事、四五六武道、夜入浴、九時就寝。空眠り日眠り山眠り人又眠る。新谷の夕、天も地も蕩然として融けんとす。

三月十日 金曜日 貝沼生

朝五時に起床、襖をなす。空は未だ薄暗きも、四方の山に霞たなびき、春心地を覚ゆ。きのふの晴天変りて陰鬱たる曇天となる。例により前組武道、後組掃除、七時講堂にて一同礼拝、弥栄を高唱す。皇国精神の気分満ち満ちたり。七時半朝食を了す。八時半より高野先生より亜米利加合衆国の建国史のお話あり。十時より肥料学、午後一時より歴史、三時より後組柔道、前組実習、五時授業終了。七時より目学、九時講堂にて礼拝し静かに眠りに就く。

三月十一日 土曜日 晴 大沼生

清水玉結ブ小川ノ辺リニ時ナラヌ瀧音投ゲテ禊スル。朝ノ五時爽々タル気分ハ星斗輝ク明空ニ相和シ、身ハ清明ニシテ天下ノ自治生、理想的修養団ノ活動ハ始レリ。身

ノ屈強ハ武道ニテ、心ノ清麗ハ掃除ノ跡ニ認メヨト。ソレゾレ例ノ修養終リヲ告ゲシ時、凍レル東山ノ頂ニ莞爾トシテ幸多キ御光ヲ賜ル旭日ハ、永遠ノ平和ヲ祝シテルガ様ニ、徐々トシテ自治寮ノ窓ヲ照シ給フ。尊イ日本国歌ノ合唱、天皇陛下ノ弥栄ヲ声高ラカニ祝福セシ朝七時、ホントーニ崇敵デ勇敢デ天下ノ模範青年ヲ任ジ居ル自治講習生ハ意気容々〔揚々〕トシテ、凡テ美ナリ善也。時計八時！法螺ノ響轟々トシテ舎内ノ空氣ヲ濁ラス。五十ノ健児ハ神聖ナル広堂〔講堂〕内ニテ中沢先生ノ欧州大戦争ニ関スル話ヲ聴ク。終始寂タリ。独逸ノ余リニブアルナルニ涙ス。所長急ニ帰校セシニヨリ拾時ヨリ農村経営ノ講義アリ。地主小作ノ問題ノ解決ハ地主モ自小作人モ俱ニ皇国精神ニ眼覚メ、努力奮闘セナケレバナラヌ云々ト。午食後ハ外出者頗ル多シ。午後休業ナレバ春ノ氣ニ漲ル若人ノ群ハ、アチコチト日温キ所ヲ散策ス。見ルニ画ナリ、歌フニ詩タリ。僕等ハ数多ノ友ト俱ニ帰省ス。故ニ茲ニ筆ヲオク。自然ハ平和ニシテ凍フテアリシ東山モ西山モ、俱ニ美シキ景ナリ、神秘ナ陽炎昇ル樂園ナリ。終リ。



三月十二日 日曜日 晴 川崎光雄

起床五時半、後禊掃除。置賜郡ヨリ来ル青年五六名ハ朝武道、食後加藤先生ヨリオ話ヲ聞キ、午前十時過家ニ帰ヘル。七時礼拝後朝食、正后ニ昼飯ヲ食ス。夕食ハ五時半、七時ヨリ黙読、九時ニ礼拝。後床ニ付ク。

三月十三日 月曜日 薄曇 伊藤記

定時起床、前後二組に別れ武道掃除を為せり。七時終りて朝食をなす。七時半頃置賜郡短期講習生入所す。八時より高野先生の肥料学講義あり。十時より十二時迄で加藤先生の農村経営（国ト農村並ニ農民）の講話ありたり。

十二時十五分昼食、休息す。午后二時半より各組別れて大掃除に着手せり。終へて五時三十分夕食、七時より一時間黙読にて八時より加藤先生の森川翁に附いての有益なる講話ありたり。終へて十時礼拝、就床、終り。

三月十四日 火曜日 薄曇 深松征之助

定時起床、前後二組ニ別レテ武道掃除ヲ為ス。七時礼拝終リテ朝食ヲナス。八時ヨリ十時半迄デ加藤先生ノ農村経営（森川翁ニ附テ有益ナル講話アリ）。十時半ヨリ十二時迄高野先生ノ肥料学ニ附テ講話アリ。午後ヨリ加藤

先生ノ農村経営ノ講話アリ。二時半ヨリ各組一同二道武心劍ニ為スタリ。七時ヨリ九時迄デ黙読ヲ為ス。九時ニ礼拝、就床、終リ。

三月十五日 水 曇 古沢源徳

例日ノ通り起床武道掃除ヲナス。本日ハ例年ニ習ヒ鈴川ノ神明社ニ参拝、朝食ヲナス。時ハ午前七時半、八時半ヨリ高野先生ノ肥料学、午迄。午後吉川先生ノ歴史、三時半ヨリ地方課長ノ自治制度（市町村制）ノ講話アリ。五時ヨリ柔道、夕飯六時入浴致シ良キ心地ニテ礼拝シ眠ニ付ク。

三月十六日 木 晴 佐藤記

定時起床、前組掃除、後組武道ヲナス。午前七時礼拝して朝食ヲナス。八時ヨリ十時迄高野先生の肥料学、稍休息シ十二時迄ハ長曾我部サンノ産業組合講義アリ。昼飯ナス。午後一時ヨリ五時迄各事〔各自〕ノ分タンニ付実習アリキ。終リテ夕食ヲナス。七時ヨリ九時迄黙読ノ終リテ礼拝シテ眠就ク。

三月拾七日 曇、風強し 土屋福蔵

午前五時起床、前組武道、後組掃除、四組ハ馬糞拾ヒノ



予定デアツタガ、雨ノ為ニ止メタ。四組若干名、五組若干名、炊事。七時ニ礼拝食事。八時ヨリ十時迄農学大意、正午造林学大意。午後三時迄習字、中々船越先生ノ様ニ書ク人ハ居ナイ、書カレナイノダ。三時ヨリ全部武道、但シ炊事当番ト四組風呂当番ハ除ク。午後六時頃夕飯入浴スル。午後九時礼拝就寝。

三月十八日 土曜 風雨 佐藤正記

今日ハ未明ヨリシトシトと小雨降る音聞こゆ。時計は五時を打てども起床の鐘鳴らず。皆裸して帰宅したる時に初めて聞く。五時半ヨリ前組掃除にて、后組は武道連続の□にて汗を流す。八時ヨリ中澤先生の地理の講義があった。先生は時間を一秒違わず自分の学校の方忙しにもか、わらず来て下さる。それに何たる事ぞ、ドヤドヤ後に講堂に入り来るとは。重ぬるに居眠とは？ 先生も不快に堪へ兼ね、半時間早く講義を止められた様だつた。次の時間は高野先生の遺伝学の講義の時に強い注意があり、而しそれ等は当然来る可き事だ。有難い事だ。以後は御互に注意しやう。午後三時迄菊池氏の養鶏の話ありて放課。夜、今日は目読がないので高声各室より出で、

姦し。音学等の音も聞ゆ。九時礼拝消灯。

三月拾九日 日曜日 曇 小野記

五時半起床、武道も掃除も甚だ少人数なりき。午前有志者、所長さんより剣道を学ぶ。午后も所長さん。以下数人の有志者官舎のわきの畑耕耘をやる。其の他例日の如し。余帰省せしにより他より求めて此処に記す、終り。

三月二十日 月曜日 柏倉

起床時間例ノ通り五時。前組掃除、后後武道、七時礼拝、食事ニ移ル。八時半ヨリ学科（肥料学）十時ヨリ農村経営、正午昼食、午后一時半ヨリ亦肥料学アリタリ。三時ヨリ前組農業実習、后組武道ヲヤル。五時半夕食、七時ヨリ黙読、九時礼拝消灯。

附記 西田川郡青年団員參觀ニ来タリ。大張。

三月二十一日 火 雪 鈴木記

やすらかな春の夜の夢を破つて響く起床の鐘、それが止むと眠不足の目をこすつて起る音、戸を開閉する音、階段を下りる音などが入り乱れ、今までの寂寞が破れてまた新しい日となつた。朝は例の如く武道と掃除、道場で気合の音が盛んになる頃、早夜はあけはなれてよく見る

と曇つた空からちらちらと粉雪が降つて居た。官舎の屋根の雀が黙つて武道の気合を感じした様な顔付で聞いてゐる。七時に礼拝、共に天皇陛下の弥栄を、我が皇国の弥栄とを祈つた。今日は春季皇霊祭で一同休み。校門に

ひらめく国旗は朝日の大空に上るが如く、実に我皇国の前途を表現して居るではないか。今日は亦本所卒業生の懇談会があると云ふので十時頃より続いて姿が見えて来た。日にやけて色浅黒く其の眼の底には、あくまでも農村問題を解決しなければ止まぬと云ふやうな堅い堅い石の如き決心が漲つて居た。あゝ久振りで母校に接した時の人々の心はどんなに躍つたことだらう。其の胸の中には身を捧げて農村の発展に努力すると云ふ尊い誓が響いたであらう。今日の夕方卒業生は別れを惜んで校門を出た。夜は黙読休み、九時に礼拝し後床に入つて又やすらから〔に〕夢路を辿つた。

三月二拾弐日 木 雪 武田記

定時起床、一同襖ヲナセリ。定時ヨリ前組武道、後組掃除、七時礼拝朝食ヲナシ、八時三拾分ヨリ正午迄土壤学（但シ拾時マデハ所長サンノ土壤学ニ対スル自由質問）、

正午昼食。午后一時半ヨリ又モヤ土壤学、三時ヨリ五時マデハ地方課長ノ自治制度、終ツテ六時夕食。定時黙読、九時礼拝消灯ヲナス。完。

三月二十三日 木曜日 曇 富樫廣三

五時起床、各人例の如く襖を為し、五時半より前組武道をやり、後組は掃除をやつた。寒気が激しいので武道も掃除も楽ではなからうと推察せざるを得ない。予定の時間で授業がはじまり、最初高野先生の肥料学の講義があつたが、産業組合の先生長曾我部氏が御出でになつたので、肥料学の講義を中途で止め、只ちに産業組合の講義があつた。後に居た為か先生が黒板に御書きになつた文字が弁然と見えないので大いに困難を感じた。産業組合の御講義が終ると又肥料学の講義があつた。

午后一時から東京から遙二御出でになつた。早稲田大学教授阿部理学士の自然科学に就いての御話があつた。真摯なる学者としての態度を有してゐる氏に接した我々一同は、或偉大なるヒントを与へられて厳肅にその御話を聞いた。その御話は、科学の意義、科学上の熟語の説明、地動説と万有引力、□〔浚？〕五星の発見、科学者とし

ての必要な態度等に就いてであつた。自分は真理の探究が如何に人生にとつて大切であるかを痛切に感じた。自然科学の御話が終ると、只ちに五組は風呂たきをやり、炊事当番を除く其他の人々は柔道をやつた。其他は例日と大差がない。終。

三月二十四日 金 高橋

定時に起き出でて見れば満天満地の雪、万象口を嚙みて曇りたる空より粉の如き飛雪霏々たり。甲組掃除、乙組武道、今朝は木剣二本目迄の打太刀を初めて教はりぬ。余りの厳しき寒さに室内の空気は冷え切りて木剣握れる手亀まんとし、持てる雑巾は落ちんとす。炊事当番の米磨ぐ手は蝦よりも赤く、部屋部屋にある寮生は火の残れる室を求めて□〔談?〕じぬ。実に寒き日なり。定時に後る、こと三十分にして早稲田大学教授阿部良夫氏の(昨日よりの続き、光の本性に関する説及び結論) 自然科学に関する講義あり。約一時間半にして了す。其の後午餐迄は県農会技師石川氏の農会に関する講演あり。夜の雪花は依稀として紛々霏々斜に飛び横に狂ひしが、午に至りて遂に全く霽れたり。午後は吉川先生の歴史及

び随意の柔道なり。五時半にして晩餉の膳に向ふ。漫々たる凍雲次第に薄れて彼方此方にと一抹せるが如き碧空帯の如く棚引き雲は東□次第に剥げ、日は僅に弱き光を漏らし漂へる片雲を樺色に彩りて没しぬ。夜黙読礼拝は例日の如し。九時窓櫺〔れんじ〕を払ひ灯を携りて外を覗へば風強く吹き出でて飛雪又紛々たり。終り。

三月式拾五日 土曜日 佐藤豊治郎 曇後晴 朝降雪西北風

起床、法螺を合図に一同臥床を蹶起せるを午前五時直ちに洗面、襖をなす。夜来乃降雪尚止まず、寒氣肌を壁く許り。

朝仕事、前組武道、後組掃除、礼拝後朝食。

学科、自午前九時、至同十時五分、習字、船越先生。自同十時十五分、至同十一時五十分、農会組織に就、県農会石川技師殿。正午昼食。自午后一時十五分、至二時三十分、農学大意、高野先生。

雑件、一校時は中沢先生乃地理講義なりしも都合の為習字と交換。放課後実習、武道共になし。外出するもの。或は帰宅するもの多し。帰省者五名。午後九時礼拝して

直ちに寝に就く。

三月二十六日 日曜 第拾二号室 大場

今日は日曜だ。わたしちに安息のあたへらるべき日だ。だから、わたしは、あくまでも日曜らしき気分筆を取らふ。堅苦しいきまりきつた固陋な記録をしばらく避け  
て……。

×  
わたしは先づ「真摯な態度に飽かざる」ことをわたしの生活のあらゆる意味に於て第一要件とする。……ことを宣言しやう。

×  
疲れたる体……といふことに人生の誇りがなければならぬ。活動せぬ人を幸福と思ふのは大なるアナクロニズムでなくて何であらう？

×  
美しい沈黙の時間が、わたしの全身を<sup>x</sup>やんはり<sup>x</sup>包んでしまふのを、わたしはいつも願つてゐる。

「失敗せよ！ 而して研究せよ。愛着と興味とはひとり  
でに湧かん。」とは、何時<sup>いつ</sup>か高野先生がわたしちに与

へなされた言葉だ。

あらゆるものはすべて失敗の歴史を持つてゐる。そしてすべて完成すべくもがき苦しんでゐる。わたし自身も「みすばらしき未成品」の自覚を以て美と愛との理想郷  
一途に進み行かう。失敗はもとより覚悟の上で……。

×  
何等の感想も、何等の詩想も浮ばぬ時は寂しい。こんなとき、自己に弱い私は時に悲惨に変わつてゐることがある。

×  
誇張ほど醜いものはない。謙遜もあまり誇張し過ぎると却つて不遜となることを忘れてはならぬ。

×  
瞬間に掴んだ美の断片はすぐ煙の如く消え去つた。固定した美をほんとうに力強く握りしめ有意義な観察をなしたいとは、誰もがあせり望んでゐることにちがひない。わたしもそれを深く考へ、且つ思ひ惑つてゐる。

×  
朝五時に起きることは、普通人より一日二時間だけ貴重なる時を「得<sup>とく</sup>」する訳だ。夜九時に就眠するのは普通人

(夜いつぱり) より一時間乃至二時間だけ早く華やかな夢の国の楽人となれる訳だ。(わたしのまづしいノートから比較的短かいものを二三抜萃して貴重な紙面を拝借しました。)

参月廿七日 月 井上

定期起床、まばゆき目をこすりつゝ、。天女鈴を振るが如き深々と流し行ク小川ニ埋マリテ褻スル身ノ爽快サヨ。春の曙ヤウヤウ白ク成り行ク頃オヒ、例ノ乙組武道、甲組掃除ヲ始メタ。紫ダチタル雲細クタナビキテ、春景色ヲ添ヘテ居タ。□「彼？」レ程美クシキ者ハ無イ。先ツ東ノ空ヨリ白ミ始メタ。此ハ太陽ノ出ツル先触デ、而モ其ノ先触ガ恰モ唯「誰」カノ大キナ手カ夜ノ間気□シテ居ルカノ如ク静デアツタ処へ、世界一時ニ活ヲ入レルカ如キ胴貝ノ物□□言葉ニ尽シ難キ時ヲ与ゲタリ。

□テ合律ニ武道的精神ニ充チタ神秘的ナル音声ニテ天皇陛下皇太子殿下ノ弥栄ヲ参唱シタ。朝霧ノ吹キ引キ行ク。続イテ万有、夜ノ夜ヲ脱ギ棄テタ。

此ヲ見テ驚ク闇の悪魔王今迄の闇夜ノ中ヲ横行シ復讐ノ戦の宣告シテ居タ。俄ニ周章狼狽、人ヲ迷ハス如クトヤ

付キ始メタ。昨晚高野先生ヨリ宿題トサレタ真ノ農人タル資格及ビ農業経営ノ目的ノ答案ヲ運ブ音デアツタ。拾一時ヨリ高野先生の講話、一時ヨリ肥料学ヲ習ハツタ。

日光ガ勝利ヲ得シ時来リ、陽気ハ地ニ満チ渡リ掛リテ有ル。渡リ過ギシ頃ヨリ大掃除ガ始マツタ。光輝燦然タル姿ヲ地平線上ニ表ハシ、万有<sup>ゴトゴト</sup>尽ク日光ノ照ラヌ陰ニ駆落スル頃オヒ、風呂ワキマシタ。活気ノ含メル金声ガモレタ。夜ハ黙読礼拝例ノ如シ。九時過ギ窓ヲ開キ灯をユスリツ静ニ外ヲ覗フルニ、靄ニ包マレタ暗黒ノ世界、薄絹ニ包ンダ真球ノ星市内電灯ハ眠ソウニ照シ、何トナク溶ケ行ク様ニ思ハレル。

空ハ朧ノ黒着ニ野モ山モ森モ人家モ皆一樣ニ黒着ヲ着ケテ居ル。萌芽ノ香ヲ送ル夜風ソヨソト肌ニ振レ和カニ撫デテ行ク。軒辺ノ梅ハ今綻ビン吹クトモ無キ夜風ニソヨソト花香ヲ漂ウテ来テハ□ヒ知レヌ思ヒヲ抱カシム。了リ。

三月二十八日 火曜 花屋

私は近頃惣ては癖の付け様だと痛切に憾じて居る。入所当時の起床は誠につらかつた。起床相図に目覚されず、

同室の井上君に呼びさる事度々で有た。然し今は大抵時間前にわ目覚まして居る。今朝も眼を開けば忽ち起床の相図が鳴た。前組掃除、後組武道である。前八時半より霞城聯隊軍旗祭を好期とし、名誉ある軍旗を奉迎し、亦兵営見学すべく出寮した。春の若芽を湿らす小雨はしとしと地を浸して居る。営内に入れば満空□を成し、意味有る血染の桜は將に□びんとし共に平和を祝ふて居る。一方今日の祭典設備□又世界大勢に關し□上教訓を与へられた。今朝の小雨は俄然雹と変る。觀衆をして小ながらぬ困惑を与へた□にありて宏々たる営庭に於軍旗奉賀式挙行された。山田聯隊長の式辞有り。続いて壮烈なる陣地攻防戦の火蓋を切らる。最新式兵機〔兵器〕の活用又応用し、うた、欧州の大戦もかくやと。其の戦況を偲ばしむ時、既に午報を發した。

直ちに岡崎伍長の親切なるご案内で営内生活状況、炊事、風呂等を遺憾なく見学し吾人の必らず心得□く可き軍事智識を納められ得る所甚だ多かつた。一同喜色満面、後一時三十分帰寮した。午後二時より県会議事堂に於て聴講の令が落せられた。今日は山形県畜産組合聯合大会第

一回總會なさうである。二時拾分開会された。开会挨拶に□予で知事が諮問の提出問題の建議が始まり、亦其の説明有り。議会振等も参考と成た。三時半頃より石橋馬政官長の講演有り。本県家畜の振はざるを論し、又日本の将来に於ける畜産の必要を説き、家畜の盛衰は当業者の自觉向上に俟つもの成りとして□励せらる。ともかく今日の諮問事項も委員付託と成たが、明日の結果如何でせう。午後五時四十分閉会、早速帰寮した。乱筆ながら今日の所感大要を記して、今日も亦有意義に暮せしを悦ぶ。弥栄。

三月廿九日 水曜日 梅津

昨日来の雪は庭を白雪界の銀光を放たしむ。暁□り身にしみて、冬は又も再來せるのである。春の陽気に接して其の長閑を味ふも数日ならずして冬の寒気に接す。これ□世の中であるのだ。浮世なのだ。起床午前五時一同禱、五時半より武道掃除、七時礼拝。時に太陽は東天高く昇りて弱き光を自治寮に投げた。天は次第に雲りて雪は降り始む。午前八時半より学課、農学大意。午后県会議事堂に畜産に關する講話を聞きに出発、約四時に渡りて講

話と委員長の報告あり。五時議事堂を去り、帰寮す。夜は七時より黙読、九時礼拝、時に空は澄み、星は光を四界に投ぜり。

三月卅日 木曜日 黒田

定時起床碧たる空いまだ二三の惑星を止めて弱き光を漂はし、本日の快晴を以て思はるべし。一同禊武道掃除、七時礼拝。八時半より肥料の講義、産業組合。午后一時半より三時半迄で県石田技師の農会の講話。当県農業の稚々として振はざる状態をも農民の怠惰此処に在りと嘆じ且つ痛罵し、最後に希みは諸君蹴つて此の習を破り、農会のため一光道を給はれかしとして講義終つたり。四時より五時迄で室にて自習、黙読礼拝就床例の如し。高く輝く細多の星を仰ぎて、残月一星…と口走るとも又静かならんや。

三月三十一日 金 五十嵐記

定時起床、第一校時高野先生肥料、二校時横田氏の林学大意、后歴史、四校時柔道、風呂立つ。

四月一日 土曜日 晴 遠田

定時起床、一二三組武道、四五六七掃除。八時ヨリ十時

迄高野先生肥料□□ニ就イテ、十時ヨリ清水及衛家の自作農経営講話ヲナシ、帰宅后ニ自家経営調査ヲ申付ク。午后一時五十分ヨリ三時迄菊池先生ノ養鶏ノ御話し、三時ヨリ自由帰宅スルモノ多シ。黙読ナシ。

四月二日 日曜日 晴 佐藤

六時半起床、全部掃除、朝食は七時。各々生は思ひ思ひの所に行きたる物も有りき。一行は高畠のキヤラメるの製造を見学に行きました。五時半夕食、本日黙読なし。九時に至りて礼拝して眠リト□□。

四月三日 月曜日 神武天皇祭 晴 稲垣記

五時半起床、当座には曇天であやしな天候であつたが、少しの人員で掃除、礼拝を終りて朝食に取か、つた頃には全く晴渡りて万物春情緒を現して来た。神武天皇祭なるを持つて国旗はか、げられた。而式は別段行はれず個々心の中にて祝し合ふた。学科もなし。帰省せしものは午后夕方迄に大部分帰所した。九時礼拝就床。

四月四日 火曜日 晴 森谷記

起床朝食迄例に依り例の如し。八時から十時まで先生の都合で船越先生の習字の教を受けた。十時から正午まで



は高野先生の肥料学講義、午後一時から菊川先生の歴史の講義、徳川幕府の衰亡原因より大政奉還までさながら当時国内外の紛糾の様を眼の辺り見へるが如き心地致す。四時より大掃除、一組丈前庭の模様替をした。余りの鬱陶しさには少々閉口した。

四月五日 水曜日 晴 阿部記仕

定時起床、一二三組武道、四五六七組掃除。午前七時朝礼朝食し、八時より十時まで高野先生の農学大意あり。午後一時より三時まで開墾地作業予定表ヲ作り、穀類、藪類、果樹、牛、鶏、植林、蔬菜、副菜、桑樹、養蚕、十組に分ちて各組四名宛組分をなす。三時より五時まで柔道をし、二組は本館の（「一字分空き」）園作りをしたり。五時半夕食をなし七時より黙読をなし、午後九時に消灯す。

四月六日 木 晴 茨木記

五時起床、武道掃除、七時礼拝、朝食。高野先生の肥料学、第一二三校、三時より各自調査の爲め随意外出す。九時床に就く。

四月七日 雨 金曜日 石山

定時起床、朝食迄例の如く。八時より所長の有益なる設問に対する返答は、肥料としての疑問をして小等脳裏に徹底せしむ。次に横田技師の林学、后後は習字、終りて武道あり。夕食後は各自分担の調査に余念なし。九時礼拝、消灯、例の如し。

四月八日 土曜日 結城記

定時法螺貝の合図に一同起床して禊なす。六時半迄武道と掃除に別れて、了りて礼拝後食事、八時式拾分から師範学校教師中沢氏の地理、華府会議に就て九時四十五分迄拾時拾分より加藤所長の自由ついでの解、昼食正拾式時拾分、午後一時半より県農会技師石川氏の農会法及農会に就て三時迄、後放課。帰省せる者数名。九時礼拝就床、了り。

四月九日 雲 日曜日 深松征之助記

朝五時半に起床、朝食迄で一同掃除をなし、所長図書室にて勉強致して、午後七時より九時迄、黙読をなし、九時に礼拝をなして消灯をなし。了り。

四月十日（晴）月曜日 山口記

法螺貝の響きとともにむつくと床を蹴って急いで禊した。



澄み渡った朝の静かな空気を胸一杯吸ふて心身を清めて前組ハ武道、後組ハ掃除。七時に礼拝、食事、わかめ汁。八時より高野先生の肥料学……、施肥上の注意条項に付て詳細なる御講義、十時迄。十時二十分から所長の農村経営……農村自治ノ機関、……役場ハ農村ノ大生命の活動の本居であると発端して、村民全体の人格の結晶である、と熱烈なる御講義に一言隻句肺腑に徹す。十二時迄。昼食、生豆腐。午後一時半から大掃除、一二組(風呂当番)他ノ全部実習、馬鈴薯播き、温床、拵へなど五時迄。六時夕食、葱、油揚げ、食後四組より入湯、七時より自習。九時礼拝就床、終り。

四月十一日(晴) 火曜日 実業生

定時起床、空は灰色の曇り棚引きて、太陽東の山端を突破せんのみである。我が親しき襖場たる。行く小川の水は絶えずして而かも本の水ならず。思ふと我等青年の赤い血潮の迸る青春の体躯を縦横に緊張せしめ忍耐心の裸身の真紅たる鮮血を以て一段の色彩を加ふる者は、我等日頃の修養と不撓不屈の努力に外ならぬのである。前組掃除、後組武道、定時礼拝終りて朝食。第八時より拾時

迄で高野先生の肥料学講義、拾時より肥料学続き。肥料試験上の注意等の講を述べ、肥料学科修了と成る。於七時迄で終り拾式時二十分昼食、午后第一時半より三時半迄で所長さんの植物学に就きて。一同顕微鏡にて茎の構成たる気孔を観察したり。三時四十分より五時迄で一同柔道あり。五時半夕食。第七時より九時迄で黙読。定時礼拝、終りて就寝、以上終り。

四月十二日(晴) 水曜日 長谷川記

定時起床、最うすつかり明くなった。カーテンをしばらくつ、窓よりのぞけば、空はからりと晴れて山岸には薄い春霞みがたなびいて居る。十五夜の月は今や西山に沈み果て様として居る。其の様は何と無く物凄く且つ美しく、赤い弱い光を放して居る。葉師堂の朝の鐘は此の果ても無き宇宙にひゞき渡つた。

七時十分前礼拝急ぐ、食事、八時より十時迄所長さんの植物学炭酸同化作用の御講義、十時半より福島県ノ月の輪村の村長さんが御出でになり、急に所長さんの農村経営重に月の輪村の改良に付いて一時間半。午后一時より中学校の吉川先生の歴史三時迄、三時半より柔道及び撃

劍。五時終り、夕食五時半、七時より黙読、九時礼拝就床。

四月拾三日 木曜日 午前晴 午后曇（二号室佐藤）

定時起床して定時内に禊をなし定時武道礼拝、定時朝食をなしたり。定時事業開始、高野先生の食料問題の研究に關して拾二時迄。定時昼食。午后一時三拾分より山形煙草専売局を視察に行きたり。其の得たる感想や如何に。

× ○

或人は言ふた「実に悲惨の感ありと」又或人は云ふた「工場生活を視て始めて幸福なる農人と言ふ事を覺りたり」と、又「悲愁の感あり」と叫ぶものあり、又「何もかの修養になつた」と言ふ者もあつた。まあ何は兎も角も少なからず修養になつたと思ふ。若し僕が文人で有らば専売局を視て得たる感想を思ひの仮記す事が出来たらう。若し僕が評論家であつたらさぞ何か評論文を記す事が出来たらう。僕は只僕として貧弱なる精神上に何もかの感を与えられたのみ。而して其の帰途、某詩人や某評論家の評論を第三者の立場にて聞いたのみ。然し与えられたる其の何ものが尊いと僕は熟々と思ふた。

此の一日僕は何ものかに依つてぼんやりした日だつた。午后四時帰寮した。定時夕食、黙読時間、風呂に入る。定時礼拝、消灯。了り。夜雲りて今にも雨降りそうな模様だつた。

四月拾四日 金曜日 雨雪 松田生

定時起床して禊をなす。前組武道、後組掃除にて朝飯は午前七時なり。空はどんより曇り、雨はしとしとと自治寮の窓を打つ。

午前中ハ農業経営ノ研究、諸先ト共ニ、十時ヨリハ横田氏ノ林業大意ノ講義アリ。午后一時ヨリ習字三時迄。三時半ヨリ五時迄ハ武道木劍ナリキ。夕飯ハ豚汁デ結構ナリ。午后九時礼拝シ消灯床ニ就ク。雨垂ノ音ヲ聞キツ、。四月十五日 土曜日 曇後晴 小の記

昨日の荒れが灰色の雲に名残りを止めてぎつしり空を覆ふて居る。朝定めある各々の勉めを終へて神社参拝に出掛けた。近くの山々には未だ昨日の雪が消え残つて居て、又た冬に還元した様な気持ちがある。……然し矢つ張り春は争はれぬ。薬師公園の桜は、最うほころび初めて、シツトリ露を含んで居た。昨日の雨に清められた境内の

じめじめした土に気持ちよく喰ひ入る足駄の感触に、崇  
厳〔莊嚴〕なる靈氣漂ふ天神様の前に礼拝した時、総て  
の邪念邪想は清く尊き血潮と化して若き胸におどる。弥  
栄弥栄。吾等は此の気分で勉強が出来るのだ。八時より  
十時迄中沢先生の山形県地理、十一時より一時迄所長先  
生の労力分配に就而農家の経営方針を承る。廿三日決行  
する秋田旅行につき注意を受け要意〔用意〕の為過半数  
は帰宅した。終り。

四月十六日 日曜日 佐藤

后前五時半起床、全部掃除、七時朝食、正后昼食、六時  
夕食、一日晴、九時礼拝、就寝ス。

四月十七日 月曜日 斎藤

午前五時起床一二三四武道、後組掃除、六時四十五分礼  
拝、七時朝食。第一校時所長先生ノ麦陸稻栽培上の注意  
事項の話。正后昼食、后後全部掃除、三時半より地方課  
長阿部氏の地方制度の話、五時半より夕食、六時より県  
会議事堂にて早大教授西村氏の出羽古代文化に関する話  
あるにより生徒大部分聞きに行けり。礼拝なし、十時半  
帰所、寝に就けり。午前中晴、午后曇、以上。

四月十八日 火曜日 藤田

曇後微雨、起床五時半。前組掃除、後組武道。七時礼拝  
食事。八時半より授業開始。第一限目数日前開墾地の視  
察をなしたる高野先生の開墾地の農業経営上のお話あり  
たり。第二限目所長先生の植生の御講話を拝聴す。第三  
限目直井農務課長の県業状態につき詳しく説明ありき。  
放課後武道、後ち所長先生の吾々日常の態度に就きて御  
訓話あり。八時夕食をなし、九時礼拝。礼拝後約一時間  
所長先生の御訓話ありたり。以上。

四月十九日 水曜日 大場

五時半起床、八時授業開始。一校時農業経営（高野）、  
二校時同、午後三時迄歴史、五時柔道、夜入浴、九時  
就眠。

四月二十日 木曜日 貝沼

五時起床、八時ヨリ授業開始、所長殿ノ蔬菜栽培。有吉  
学務課長ノ法制講義、午後農業経営、前組武道、後組実  
習、藁仕事、五時ニ終リ。九時礼拝就眠。

四月二十一日 金曜日 晴 沼上の人

光輝く朝、人々は舎外舎内ノ掃除を為す。校賓に快感を

与へんが為、とは僕の想象〔想像〕です。法螺の轟き耳をつんざき舎生の足音を聴く時、「植物!」「客来り所長暇無し」と高野先生は告げる。農業経営で八時より拾時のタイムを消費すべく。春らしき春、花咲く春、本当の春日和だ。尚ほ更ら高野先生の北海道主義も春気さとして来るように聞ゆ。北方に画描く、詩園のかほり芳しくして美しい空気は永久性を希望してる。美しい花も美しい川も、拾時の針に刻ざれし時、加藤先生スマリングたるスタイルを演説に現はして「生長(グロース)」と先ず物を働かした。ブロード、ビーンにて種子の説明、心まで感ぜり。二時間の後のころでした。四十いくつかの健児は県庁前を急行した。商品陳列場内に整列せる自治講習生は、所長を先頭に消防器具の観察を為した。陽光まばゆき午後の日、水戦の巷は現出し、雲煙天を箒し、涼気人を呼びて爽々たり。華かなる形市〔山形市〕は水々した活気を帯びて美しい。帰校間無く、総てを倒す武道は、意気込強し。夜ハ興湧きこぼる茶話会に与へられ、別離の宴とは昔の名で弁論芝居乃至は手品、所長氏の薩摩琵琶、高野氏の追分節。聴て時は過ぎ行きて、早

や十一時、最近かなり閉会の辞も盛々裡に、礼拝消灯午後十一時。おぼろ月影青くしてカーテンより漏るを見るのみ。了。

四月二十二日 土曜 晴 古沢生

夕ノ疲ニテ今朝ハ皆寝坊シタ。床ヲ離レタトキハ六時ナリ。襖ヲシ前組ハ木劍、後組ハ掃除ヲナス。朝朝七時ヲ過キタリ。例ノ中沢先生ノ地理、次ニ石川技師ノ農会ノ講話アリ。午後二時頃ヨリ木劍ヲハジム。炊事当番ハ明日ノ秋田旅行ノ支度ノ飯ヲタク。二鍋ナリ。午食ノ弁当ヲツメル。湯ニ入り礼拝ヲナシテ床ニ付ク。

四月廿三日 日曜日 晴 伊藤生

五時起床、何時からか待つに待ちたる秋田旅行も愈々本日となったので、各々は我先我先と其の準備に取り掛り、五時半過ぎ礼拝食事を済ます。病氣其の他を除く外三十七名の健児は充分旅装を整へ加藤先生と舟越先生との引率の下に一行は各々顔に笑味〔笑み〕を洩らす。意気揚々と校門を後にステーションへと歩を進められたり。後に残されたる僕等は唯茫然として顔と顔と見交すのみであった。?

四月二十四日 月曜日 曇 土屋

午前五時半頃起床ス。昨日全部旅行ニ出タノデ、今日残ツテ居ルノハ古イ連中計リダ。成澤、森谷ノ両君ガ炊事、残全部デ掃除ス。今日ハ一日室込リダ。夜ハ全部集ツテ菓子食ヒヨアル。礼拝就寝九時。

四月二十五日 火曜日 光雄

激しい春雨に公園の桜花は惜しげもなく色失せた。又止みなく降りしきる雨に一入留守居の物淋しさ感ぜずはゐられない。夜は寂寥なくさくさしい思ひにある空虚を感じてつくねんと礼拝の鈴を待憧れた。

四月廿六日 水曜日 晴 成沢喜代太郎

朝より晴なり。今日は我が自治寮の健児の秋田旅行を了へて帰らるゝ日なり。在寮生は、午前中備品調べ、午後は庭の掃除をなし、旅に行かれし友の疲を慰めん為、風呂に水を汲み、又空腹を思ひ御飯の用意等に忙しかった。時は遠慮なく移り、已に七時も過ぎて居たので、八時何分かの汽車で帰るべき友を迎へん為、停車場まで急ぐ。時来り汽車はプラットホームに横たわれども、我等待つ人々の影ぞも見えず。しばしは茫然たり。然し友待つ心

の已み難く、夜の寒風もいとほづ、次の列車の来るを待つ時、すでに拾時を告げんとする頃、轟然として汽車の来るあり。出でて見れば何れも元気に満つたる様にて悠々と下車し談笑裡に構内を出ず。此の活気ある若き人々をば誰か四日間旅行せり人と思はん。迎へに行つた人々も此の健児の笑顔を見て、自ら笑顔とならざるを得なかつた。すぐ様自治寮目掛けて急ぎ拾時三十分着す。草鞋をぬぎ湯に入り直ちに寝に就く。此の三十六の魂如何なる夢路を辿るならん。

四月二十七日 木曜日 佐藤生

午前六時起床、全部掃事〔掃除〕、終リテ礼拝シテ朝食ヲナス。八時より加藤先生ノ農村経営アリ。十時より長蘇我部氏の産業組合の講話アリ。終リテ昼食ヲナス。午後ハ自治寮大掃除、終りて休み。午後五時半夕食、九時迄で黙読して終りて礼拝して眠りに付く。(黙読時間ニ湯に入りたり。)

四月廿八日 金曜日 晴 工藤記

定時起床襖を成し、前組掃除、後組武道、定期礼拝、朝食をなす。第八時より加藤所長さんの農村経営に付き農

村の教育。秀才者教育、補習教育方農村の機関たる役場等に付講話ありたり。正后十二時十二時式拾分昼食、午后第二時より五時迄で、一同武道、第六時夕朝豚の汁なり。第八時より道場に於て茶話会あり。講話として清水氏の有益なる話ありたり。礼拝をなし終りたる時は十一時十□分である。

四月二十九日 土 晴 山口記

起床五時半、一同禊して前組武道、後組掃除、七時二十分に朝食、豆腐汁。一同講堂の神前にて撮影、八時半から地理、日本の殖民地、満州、蒙古、南洋に付いて、十時半迄。第二校、清水先生の農村経営と産業組合。

一、社会文明の進展と農業の関係を正午迄、午後同じく清水先生の続き。

一、農村の現状と産業組合の関係を三時迄。三時二十分より又清水先生の続き。

一、農家経営と産業組合の関係、四時半迄、午後六時に夕食、入湯後、九時消灯。

四月三十日 日曜日 曇 長谷川記

定時起床、前組掃除、後組武道。定時礼拝朝飯。八時よ

り清水先生の農業経営、十一時迄。其れより今日は公園内の招魂社の祭日にて全体参拝。十一時半帰所、其れより所長先生の神社参拝に付いての御訓話。尽より自習時間外出する人もある。六時夕飯、七時より黙読。九時礼拝就床。

五月一日 月曜日

定時起床、三月半の武道修業は今朝のかけ声に暗示せられた。今朝の武道は始めて三月半武道修業を物語つてゐる。日常礼拝せるも、今朝の礼拝は真実の礼拝であつた。昨日所長に礼拝に就いての精神が徹底して。尚、此の講堂にて礼拝する今しばらくの御別れとも見えたから。

×

一昨年の秋より煩悶し続けたるも、本講習所に御紹介になつてから所長の御訓話に依つて新生により返つた様だつた。而し多感情な僕はともすれば依前（以前）の様に思想は取乱されるのであつた。殊に秋田旅行より以来の三日間位間の思想乱雑して煩悶した極度であつた。

×

何事も真剣なる努力——。真剣なる努力以て人生を解す

べしと。

×

是迄の私は徹底的な人生観は確立して居なかつた。是迄の僕は自己に弱かつた。意志が浅薄だつた。神に礼拝する精神も従つて知らなかつた。

×

秋田旅行した当時の思ひ出——。老農森川翁が国の前途を憂ひつゝ、現今思想界の情落〔墮落〕したるを歎いて御涙せし時、僕も眞実に泣いた。本荘近くの海辺に来た頃は益々煩悶を続けた極だつた。一思ひに海に入つて死んでもよいと言ふ意識もあつたが、死ななかつたのは幸福だつた。

×

所長の御訓が始めて徹底的に覺つたのが遂まだ二、三日以来だ。僕は生きる。眞の農人として生きよう。皇国精神なるかな。余は皇国精神を理解し得たるを嬉ぶ。大和民族の理想信仰を確立して而して余は生きる。

×

今日は講習所のしばらくの御別れ日だ。友人とも眞に涙

をしぼりつゝ、理想実現を期すべく将来等を語りつゝ、御別れ等した。

×

所長さんとも高野先生とも。唯先生にも御別れがづらい。僕は父以上に恋しいのだ。眞からなつかしくてならないのだ。而し未練は残さない。一刀両断。余は我が道たる分担を進む。無限に感謝しつゝ、無限によるこびつゝ、。

②〔表紙〕大正十一年度 日誌 北村山郡大高根開墾地

五月六日 土曜日 稲垣記

天候 晴天

愈々開墾地生活を送る時も来た。一行十三名、高野先生、船越先生、成澤君、遠田君、會田君、桜井君、勇氣孝太君、松田君、茨木君、武田君、遠藤君、笹原君と僕。その中、成澤君、遠田君の二君、先発として六時五十七分の列車にて立つた。残部の十二人は一列車遅れて九時八分の列車にて元氣よく山形を去つた。大石田に着すれば馬車一台、我等の荷物を運搬するべく待受けてゐた。大



石田にて昼食を済して富並迄は何の苦勞もなく総ての荷物の馬車に委ねて歩んだ。富並に於て先発の諸君にて用意せられし荷車二台に馬車より移して乗らざる小數は一部分のものにて背負ふて出発した。全く危険な事もあつた。而し諸君の決死的奮闘と天候の良好とを相俟つて苦難も幾分容易ならしめ、無事山之内井上氏宅に着した。

そこで車をすて、各自背負へるものを背負て残物を皆井上氏宅に預け置き、最後の奮闘をなすべく、皆息喘ぎ喘ぎ山道を登つた。これには随分閉口した人もあつた様だつた。丁度中頃で先に登つた先発の二君の応援に預り、一同多いに〔大いに〕元氣着き、六時漸く目的地たる官舎に着した。着すれば最早や室は入り住める様になつて居り、一同の第一の欲望たる食事も全く準備出来て居た。少しの間周囲の雪囲ひ等取り整理なして後、ゆつくり夕食についた。夜は今日の慰勞をなすべく又將來の奮闘を期すべく茶話会が催された。九時礼拝就床

五月七日 日曜日 成澤記

天気 朝曇り、十一時頃ヨリ雨。起床五時也。朝は各自自習、食後は遠田君、結城君、茨木君の三人は富並に過

燐酸取り、一同は農場廻りをなす。炊事は松田、成沢の二人也。十一時農場より帰り、屋敷の掃除をなし、午后は休み、二時富並行きも来る。本日午后三時頃佐藤豊治君来る。夜は茶話会あり。九時礼拝就床す。

五月八日 月曜日 遠田記

天候晴天、勞力拾人。作業午前、三人豆乾シ杉苗起シ、三人陸稲畑打起シ、二人冷床作り。午后、二人豆打ち、七人陸稲畑打起シ、麦ノ追肥及中耕。成澤君大石田買物。松田君、結城君炊事、武田君病氣休ミ。朝五時起床、七時食事、八時出発、九時ヨリ始メテ五時半終業、七時ヨリ黙読、終ツテ九時就寝。

五月九日 火曜日 櫻井記

天候曇り後雨。作業午前陸稲畑の手入れ。麦の施肥。官舎前の畑地整理及び播種。午後、大豆の撰種。官舎前の麦の中耕。施肥。炊事当番、結城、茨木の二君。竹田君病床。勞力拾人。

五月十日 水曜日 遠藤記

天候晴、勞力拾人。作業午前玉ねぎ種ねまいた。午後陸稲まき。炊事当番茨木君、櫻井君。富樫君、中條君午後



にきた。

朝五時起床、六時終業、午後七時より黙読、九時終。

五月十一日 木曜日 松田記

天候晴天、労力九人。作業午前五人にて陸稲播、四人は去年の陸稲畑をおこす。午後は六人して豆打ち、三人は麦に施肥、硫酸を水に溶かして終つて豆打に手伝、午後五時半引きあぐ。

船越先生と遠田君は大石田迄用遠〔用達〕しに行つて午後六時過帰つて来ました。同八時よりは船越先生の御馳そうで甘藷会をやりました。高野先生のトラピストの御話があつた。彼等は独身で祈りの生活であると。我等も此の開墾地にては自発的に楽しくやらねばならぬと色々話がうつり、床に就いたは十時過ぎなりき。

五月十二日 金曜日 結城記

天候雨、労力九人。作業午前豆拾ひ、後豆撰び。午後三時迄豆撰び、後去年の陸稲畑を打ち起し六人。武田君豆撰び。後、高野先生、稲垣、武田君、畦道作り。午後五時引き揚ぐ。茨木君、帰省す。炊事当番遠藤君、佐藤君。朝五時起床して七時食事、八時出発、九時から始めて五

時終業。午後七時食事、黙読時間、九時就床。

五月十三日 土曜日 佐藤記

天候午前中曇、午後晴、午後東風強し。労力十人半。作業午前陸稲畑整地及び畦立。蔬菜畑へ西瓜及甜瓜〔まくわうり〕播種、豆殻整理。午後陸稲畑畦立及播種。蔬菜畑午前中同様。

来信五通及種子壺袋。

雑件、起床五時、朝食七時、出発八時、実習終了午後五時半、夕食七時、礼拝九時、直ちに就床。本日は兼て計画中なりしシルコの晚餐に一同興をつくす。稲垣君はそれが料理をなすべく午後三時半頃実習地より帰らる。夕方茨木君帰舎す。炊事当番者武田玄治、佐藤豊治郎。

五月十四日 日曜日 武田記

天候、午前晴、午后曇。労力拾老人。作業、午前陸稲畑整地播種及び道造り。昼食は午后二時なりき。食べ終りて裏道より降る。官舎へ着き南瓜を播いて休み。晩飯を早くすまし今夜は黙読時間はないのだと、稲垣さの御言葉だ。私は喜んだ。先ず家に手紙を書こうと机に向つたのである。遠田君と武田、炊事当番者ハ左ノ如シ〔左〕

に炊事当番者の名は書かれていない。

五月十五日 月曜日 富樫廣三

天候、早朝晴、後曇、風強し。労力十人。作業午前中八人耕耘、二人蘿蔔（「すずしろ、大根」）播種。午後八人陸稲播種及耕耘、二人南瓜及胡瓜播種。

来信三通。炊事当番者、遠田三次郎、富樫廣三。午后四時頃櫻井五郎君帰宅致し、笹原俊三君帰寮す。その他大なる異動なし。先生はじめ生徒一同之気旺盛なり。

五月拾六日 火曜日 中條記

天候晴、労力十一人。作業午前耕耘ハロー九人、午後耕耘ハロー引九人。他に大石田行二人。炊事当番、富樫廣三、中條與一。十四日山形に行かれた高野先生、櫻井君、夕方帰舎。茶話会あり。

五月十七日 水曜日 笹原俊三

天候晴、労力十一人。作業午前稲垣君と遠田君と佐藤君との三人は南瓜をうえました。午前ハロー引六人。成澤君炭木をきざみました。會田君と森谷と午後四時十分、及加藤先生夕方此の三人の帰舎。茶話会ありました。異状ナシ。

五月十八日 晴 木 茨木操六

六時起床、労力十五人。作業、四人ハ麦の追肥及び中耕。成澤君ハ炭焼き、拾人ハ打起し整地、終りて木を焼いて休業。炊事当番、松田君、笹原君。

五月拾九日 晴 金 五十嵐光雄

作業、麦追肥四人、但し半日、杉苗圃耕耘三人、打起整地四人、以上全労力五人半。午後ひる休み中、農場東南部に山火事発火し、折りからの大風に益々猛り狂ひ、繁る大木皆焼失の憂なれば、拾四人の消防隊決死の状態に、之れか消火に務め、五時頃漸くにして鎮火す。加藤所長、森谷君、后二時の汽車にのるべく、拾時頃出發す。夜佐藤豊次郎君のホシエリの御馳走に預る。炊事当番松田君、茨木君。

五月式拾日 曇 土 五十嵐光雄

豆植三人、杉種播種四人、灰振三人、麦畑中耕二人、全労力十二人。炊事当番者、茨木、結城君。夜汁粉の御馳走。櫻井五郎君、下痢の為休業す。

五月二十一日 日曜日 曇 遠田

天候曇、雨の要求切なれども容易に来さうにも思はず。

作業、杉苗床作り二人、麦追肥四人、豆畑整地播種七人、但し午前十時頃より午後三時迄。炊事当番結城成澤君。櫻井君病気休業す。連日の日早にて土地水分欠乏し、蒔付種子並に麦等灌水を必要とすれども、労力少く、到底及び難ければ唯心に雨の一刻も早く来らん事を祈るのみなり。

五月二十二日 月曜日 晴 富樫廣三

労力十三人、作業、午前施肥（石灰）整地五人、金時豆播キ四人、麦施肥四人、午后馬鈴薯播キ九人、麦施肥四人。炊事当番者、成沢喜代太郎、櫻井五郎。

耕地の乾燥甚し。今か！今か！と期待さる、黒雲、数日前あり。折々大空を覆へど雨らしき雨一度だにも降らず。活気なき麦の姿と慈雨を待つ陸稲の種子を見る毎に、或悲哀を覚ゆ。切に静かなる降雨を望む。今朝高野先生の御教導のもとに一同皇国運動を行ふ。小生は益々人生の厳肅なるを覚え、意義深遠なるを感ず。人生意気に感ず。勇敢に弥栄を高唱しつゝ、活躍せん。

五月二十三日 火曜日 成澤喜代太郎

天気終日雨也。労力、十三人（但し午后ヨリ）。炊事、

櫻井君、五十嵐君。作業、大神宮様裏整地也。朝起キテ見レバ雨ナリ。一同大イニ喜ブ。本日ハ大石田ニ馬鈴薯肥料等取りニ行ク積リナレドモ雨ノ為ニ止ム。午前中ハ各自熱心ニ自習ス。午後ハ小バレットナリ、農場ニ行キ、小豆畑ノ整地ヲナス。三時半頃又々降り来リ一同炭釜小屋ニ避ケテ製炭ノ見学、四時農場ヲ引上グ。帰舎シテ武道ヲナス。夜ハ食堂ニテ茶話ヲ催ス。頗ル盛大ナリ。十時礼拝就床ス。雨未ダ止マズ。

五月二十四日 水曜日 櫻井記

曇り。労力、十三人中七人大神宮裏に小豆の播種、六人大石田より味噌、縄、馬鈴薯運搬。炊事、五十嵐光雄君、欠茨木操六君。

五月二十五日 木曜日 中條記

天気、朝晴後曇り。労力、午前十三人、午後十三人。作業、午前馬鈴薯播キ耕耘、馬ハロー引に来る。午後（桜井君来茨木君帰る）耕耘。炊事当番者遠藤君。茨木君病気の為め午後より帰舎。

五月二十六日 金曜日 遠藤記

天気晴。労力、午前十三人、午後十三人。作業、稲垣さ

ん、會田君、成澤君、遠藤。午前馬鈴薯播き、高野先生、遠田君、茨木、富樫、中條、結城、松田、武田、笹原、小豆播き。午後桜井君来る。武田炊事為帰る。他一同根焼き。炊事当番、佐藤、武田の二君。

五月二十七日 土曜日 □□〔光男?〕

天気快晴。全労力拾八。作業、午前高野先生、成澤、佐藤、結城、富樫、中条、遠藤、笹原の君等、大神宮裏大豆播き。稲垣櫻井五十嵐の君等、馬鈴薯播種す。午后麦の追肥四人。小豆播き四人、櫻井五郎君、會田光雄竹の子採取の為欠。人員移動。茨木操六、松田秀治帰省。夜牡丹餅、炊事当番武田遠田の両君。

五月二十八日 日曜日 笹原記

天候晴。労力、午前十人、午後十一人。作業、富樫君、中條君、結城君、武田君、四人は麦の補肥。成沢君は堆肥原料の草刈外五人は打起し。午后、午前中の四人は同様麦の補肥及麦畑の除草外、七人は堆肥積み。炊事当番者遠田三次郎君、笹原俊三。本日作業は午后四時に終る。

五月二十九日 月曜日 午后十一人

天候晴。労力午前十一人、午後十一人。作業、午前中遠田君、結城君、山ノ内より肥料運搬。九名の者山火事発火して居りしものを消防して拾時頃漸く鎮火せり。拾一時頃から十一名して打起し。午后大麦の補肥、打起し三人。小豆播種、四人の内富樫君、三時頃炊事の為帰舍す。四時半頃から十一人して打起し。炊事当番、笹原俊三君、富樫廣三君。

五月參拾日 火曜日 武田玄治

天候晴。労力、午前十一人、午後十一人。作業、午前中成沢君、遠田君、二人灌水、溝掘り、麦補肥、四人。小豆播種四人。午後麦補肥及び蔬菜の灌水四人。根株焼四人内、中條君炊事当番の為三時頃帰る。四時頃より五人根株焼ノ手伝。炊事当番、富樫君、中條君。正午柏倉氏来所シタリ。

五月三十一日 水曜日 柏倉

天候、曇り后雨。労力、拾人、午後十人。作業、内十人根株焼、午前十時迄。後三人種豆選り。午前十時ヨリ午後二時迄一同種子豆選リシタリ。二時半官舎へ帰ル。炊事当番、成澤、中條、両君。八時ヨリ九時迄茶話会アリ。

終リテ礼拝消灯。

六月一日 木曜日 佐藤記

天候、午前中曇、午後晴、和風アリ。労力、十人。作業、午前中麦ノ間ニ稻キビ播種三人、黒大豆及玉蜀黍〔トウモロコシ〕播種七人（但シ内參人ハ過石運搬ノタメ下山少シク遅ル）。午後黒大豆及玉蜀黍播種四人（但シ二時間位ハ櫻井君加ハル）。麦ノ間ニ稻、黍播種及除草、馬鈴薯播種六人。來信、端書及手紙十通、小包五個、新聞二。炊事当番、成澤、櫻井ノ両君。雑件、午後四時頃松田君帰寮、松田、武田、笹原ノ三君ヨリ柏餅ヲ頂戴ス。午後九時礼拝、直子ニ就床ス。

六月二日 金曜日 遠田記

天候、晴天和風。労力、拾貳人、但シ一人三時頃ヨリ炊事帰舎。作業、午前中六人麦除草並ニ稻黍播種、四人ハ黍黒豆畑整地、二人昨年菜畑整地。午後五人稻黍時キ、五人玉蜀黍ニ黒豆整地施肥播種、二人炭材切り、六時切上ゲ帰舎ス。

人員移動、加藤先生外安達君、佐藤（吉）君來場。夜先生ノ御話シ、学校ヨリ御持參ノ苺ヲ頂戴シ乍ラ九時半迄。

直子ニ礼拝就寝ス。

六月三日 土曜日 中條記

天候晴。労力拾參人。作業、六人肥料受取りに大石田行、二人新官舎掃除、五人午前耕耘、午後麦手入。人員移動、高野先生、足達君、山形に行き、加藤先生、遠田君、櫻井君、新官舎移動。

六月四日 日曜日 中條記

天候晴。労力拾四人。作業、午前中麦追肥手入、午後五人麦手入、九人大豆播種耕耘ハロー引。人員移動、高野先生朝帰省。

六月五日 月曜日 松田記

天候、前晴、后後雷雨。労力、拾一名。作業、前四人は麦の除草中耕施肥、七人は玉キビ播種、后六人にて麦に施肥。木灰をふる。五人は前と同じ。四時より一同にて陸稲の除草、明日は肘折行きで楽しい。炊事当番は武田君、笹原君。

六月六日 火曜日 佐藤記

天候、晴、風あり。約三ヶ月間の自治寮生活を離れ、此閑静な農場の生活に移りてより日を重ぬること茲に三旬。

最も繁忙なる各種作物の播種も大方終了し、五町歩内外の既墾地も略整理つきしを以て、是を好機に茲一ヶ月余の労を慰すべく、一泊の予定にて肘折温泉へ清遊を試みたり。午前四時臥床を蹶起して窓外を望めば夜来の降雨全く止み、東天一带の暗雲尚未だ去りやらざるも、次第に碧空広がりて降雨の憂更になし。一同の喜び実心中に満つ。五時頃より約三時間の朝仕事に陸稲の追肥をなし、午前八時宿舍を発足す。加藤先生、高野先生を御始め一行十一名、先導者として山の内より一名を頼み、其御案内にて何れも意気冲天の勢にて六里の山道を何の苦もなく突破す。午後三時頃目的地たる肘折に着し、三春屋治郎兵衛方に投宿す。到着後は直ちに名所絵葉書にペンを走らすもの、或は入浴して疲労を流すもの、或は六里の山道跋涉の疲労も打ち忘れて外出するもの等、各自の行動思ひ思ひなり。夜は東都の画家柳先生に御出でを乞ひ色々お話を御聞きしつ、茶話会に興をつくす。噫、快なるかな、今日の清遊只遺憾に感ずるは遠藤武田両君の都合上一行に参加せられざることのみ。炊事当番者、佐藤吉之助君。

六月七日 水曜日 松田記

ゆうべ一晚は肘折、三原治郎兵衛宅の二階に寝た。今朝眼を覚ませば上天気だ。手拭を肩に掛けて湯に行つた。朝食八時、九時半頃迄自由散歩至〔致〕した。前拾時三春屋旅館を出発した。三里位来て瀧の所にて昼食した折に牛君がやつて来た。笹原君は驚ろいて真青になつた。愉快だつた。それからづねご〔次年子〕を通り、山の内にきた時、午後四時でした。皆様の茶話会した。六月七日をはり。

六月八日 木曜日 佐藤記

天候、晴、和風あり。労力、十四人。作業、麦の追肥、新墾、大豆播種。炊事当番者、笹原俊三、富樫廣三。雑件、本日伊藤写真屋、農場並一同作業中の所を撮影す。

六月九日 金曜日 佐藤記

天気、前曇、后後雨、三時頃より晴。労力、拾四人。作業、整地、新墾。炊事当番者、富樫廣三、中條与一。

六月拾日 土曜日 笹原記

天気、前曇、后後四時半雨。労力、前十五人、午後十人。作業、整地新墾。午前十一時に加藤先生、高野先生、稲

垣君、松田、武田の五人は家又山形に帰りましたのである。  
炊事当番、中條君、茨木君。

六月十一日 日曜日 雲 茨木記

午前は七人は山ノ内迄石灰素運搬。午後は休み、江坂  
さんを始に中川さん、佐藤両君は、沼に漁釣に行き多大  
乃收穫があつた。実に愉快であつた。武田君帰舎。武田  
君の御土産、笹原君の御父さんの御土産にて茶話会を開  
き御馳走になつた。炊事当番、佐藤君、茨木。

六月十二日 月曜日 富樫廣三

天候、雨、稍々寒し。労力、九人（午后は十人）。作業、  
午前農具整理及豆選り、午后整地及麦畠除草。炊事当番  
者、佐藤豊次郎、武田玄治。

安達増三君来舎す。加藤先生もお出でになる予定なりし  
が、御都合の為お出でならず。新官舎より態々来れる成  
沢、遠田の両君、夕食を共にして空しく帰へれり。

六月拾参日 火曜日 中條記

天候、曇。労力、午前九人、午後拾参人。作業、甘薯植  
付、茄子移植、午後新墾。炊事当番者、武田君、笹原君。

六月拾四日 水曜日 武田記

天候、晴。労力、午前七人、午後六人。作業、午前新墾、  
午後金時播種、炊事当番者、富樫君、中條君。佐藤豊次  
郎君病氣の為欠席。佐藤吉之助君も午後病氣の為欠席。

六月十五日 木曜日 佐藤吉之助

天気、晴。労力、前七人、后後八人。作業、前新墾六人、  
草刈一人、后豆播種七人、草刈一人。炊事当番、中條与  
一、佐藤吉之助。

六月十六日 金曜日 佐藤豊治郎

天候、曇、南東強風。労力、九人、但午前中櫻井君省ク、  
午後炊事当番者一人省ク（三時ヨリ）。作業、新墾及草  
刈（午前中）、草刈及堆肥製造（午後）。炊事当番者、佐  
藤吉之助、佐藤豊治郎。雑件、本日斎藤多吉君入舎ス。

六月十七日 土曜日 茨木操六

天候雨。午前は雨の為豆選り、午后は休み。高野先生等  
が帰舎する為。安達君、遠田君、大石田行き、五時に帰  
舎した。新に五十嵐君、菅原君入舎した。

六月十八日 日曜日 斎藤生

天候、晴、北風。労力、十六人、但シ午前十三人、后後  
十五人（一又八后後三時ヨリ）。作業、午前甘藷苗植及



ビ馬鈴薯ノ除草及ビ除藥、鶏舎運動場造り。后後モ同作業ナリ。四時半ヨリ茄子及甘藍、杉植、后後帰舎。炊事当番、武田玄治、笹原俊三。

六月拾九日 月曜日

天候、晴、東北風。勞力、十六人、但シ午前十四人、午后十三人（江坂さん婦形、二時ヨリ炊事）。作業、午前新墾八人、大豆播種三人、金時播種三人。后後、鶏舎運動場整理七人（高野先生二時ヨリ、笹原君ハ三時ヨリ炊事）。馬鈴薯追肥六人、両者出来上り後共、二草刈全部、但シ高ノ先生ヲ除ク。農具納メ礼拝、肥桶持參ニテ帰舎、夕食後茶話会、九時半閉会、礼拝寝ニ付ケリ。炊事当番、富樫廣三、笹原俊三。以上。

六月廿日 火曜日 中條記

天候、晴。勞力、拾四人。作業、午前新墾拾貳人、鶏かこひ貳人。茨木君、頭部を唐鋤にて切らる。午前櫻井君帰省、午後茨木君大石田に行く。炊事当番者、笹原俊三、中條与一。

六月廿一日 水曜日 富樫廣三

天候、午前晴、午后曇。勞力、十二人。作業、午前杉苗

手入（七人）、午后杉苗手入及根株やき。炊事当番者、中條与一、佐藤吉之助。昨日、大石田へ行きし五人、昼頃帰舎す。鈴木君（第六期生）の訪問あり。夜は新しく松田君も加はりてお帰りになりし鈴木君の御馳走によりて茶話会を催さる。

六月廿二日 木曜日 松田秀治

天候、曇少々の風。勞力、十二人。作業、午前十二人新墾、午后八人新墾、四人は根焼す。

炊事当番、佐藤吉之助、菅原一路の二人なり。加藤先生よりの御手紙二通ありました。

六月廿七（二十三）日 金曜日 武田記

天候、晴。勞力十三人。作業、午前十一時迄陸稲ノ除草十三人、十一時より十二人整地、二人苗床、覆掛□〔し？〕。炊事当番斎藤平吉君、菅原一路君。本日は石山君ト江坂君ガ入舎ス。

六月二十四日 土曜日 佐藤豊治郎

天候、晴、和風あり。勞力、十四名。作業、午前中、陸稲の追肥、畑周囲の整理、林業苗圃日覆作り、蔬菜の手入。午後より林業苗圃日覆作り、甘藷植付、木灰作り



(火焚き)。炊事当番者、斎藤多吉、松田秀治。雑件、本日は仕事として陸稲の追肥せしめため、午後時頃実習を止めたり。本日各係を決定す。

六月二十五日 日曜日 笹原記

天候、午前晴、午後雨。本日は葉山に出かけた人数一行十五名、高野先生、江坂さん、安達君、成澤君、佐藤君、遠田君、齋藤君、笹原君。

六月廿六日 佐藤吉之助

天候、雨。労力、拾四名。金時木灰施肥四名、とうきび除草施肥拾名、その後休業す。炊事当番武田玄治、佐藤豊治郎。佐藤豊治郎〔ママ〕。雑件買入の為大石田町に行く。高野先生帰山す。

六月廿七日 菅原一路

天候、曇。労力拾四名、午前中新墾拾名、馬鈴薯ノ施肥三名。午後新墾八名、大豆ノ施肥二名、大豆ノ除草四名。炊事当番、佐藤豊治郎、富樫廣三。柏倉君入舎。帰省者斎藤君、笹原君。

六月廿八日 水曜日 柏倉

天候、曇り。労力、十一人五分。作業、新墾並に大豆ノ

除草、苗圃ノ追肥。炊事当番、富樫、中條ノ両君。

六月廿九日 松田秀治

朝起きて見れば雨が天からしとすと降つておる。あ、有難い。作物はどれ程喜んだらう。私等も今日は実習休みである。午前八時頃より私と結城君、武田君、柏倉君、五十嵐君の五人は、高野先生よりナシヨナルリダのアルハベツチとローマ字の読み方を教つた(十時迄)。午前十時二時昼飯を戴いた。雨は未だ止まぬ。午后もゆつくり休んだのである。晩には雨祝と云ふのでたけのこ飯にたけのこのあんかけで大そう結構で御座居ました。安達君は農場に行き午后五時帰りました。炊事当番、中條君、柏倉両兄なり。

六月卅日 結城記

天候、曇。労力、拾一人半。作業、午前遠田君、成澤君ハ蔬菜の手入、安達君、石山君ハ陸稲扱き、高野先生、松田君、武田君、私と堆肥積み、残三人ハ溝掘り。午後道路修繕をなす、拾一人して。松田君午後三時炊事当番の為帰る。成澤君、木炭焼手伝をなす。阿部君、川崎君、新入舎す。遠藤、笹原、両君来る。炊事当番、柏倉君、

松田君。

七月一日 遠藤記

天候、晴。労力、十五人。作業、午前道路修繕七人、除草八人、午後休み。炊事当番結城君、松田君。

高野先生外六名して道路作りをなした。其後櫻井君と阿部君と安達君とは馬鈴薯の土寄せをなせり。午前に石山君が帰郷す。午後に佐藤豊次郎、五十嵐正蔵君と山形に行く。午後五時頃佐藤利八君と長谷川文六君と参り、二人より菓子頂戴し夜茶話を開く。九時礼拝して床につく。

七月二日 日曜日 武田玄治

天候、雲り後雨少降り。労力、十人。作業、安達、松田、長谷川、佐藤、武田諸君等は道路の草刈。午後は全部二時迄草刈をなす。炊事当番、結城、遠藤君ノ二人なり。午后中は休なり。高野先生は茨木君の病氣見舞。炊事当番者、結城庫太、遠藤雄次郎。

七月三日 月曜日 富樫生記

天候、雲り。労力、拾三人半。作業、午前松田、武田、結城、笹原、ハロー曳き。高野先生、阿達助手、阿部の三名は道路作業、成澤、遠田、中條、菅原、佐藤、長谷

川、川崎、新墾をなす。午后、佐藤、阿部、川崎、長谷川、ハロー曳き。ハロー曳き四名を除く外は全部高野先生の指揮の下に道路工事をなす。夕暮、船越先生と五十嵐君と二人帰寮。夜は多大なる御土産菓子にて茶話をなせり。炊事当番、武田、遠藤。特筆、武田君の飯焼き上手に感服す。

七月四日 火曜日 笹原生記

天候、午前中雨、午后二時頃霽れたり。労力、四人。作業、陸稲畦を掘り施肥す。施肥は米糠三俵三拾貫匁、木灰約百貫匁なり。午前中ナシヨナルリーダー一と三と区別して高野先生より教わる。尚朝仕事に日本青年読本一乃巻の農家の唄なる詩の朗読をなせり。尚皇国運動をなせり。夕暮、笹原君、無断帰宅して帰らず。佐藤吉君、佐藤豊君、富樫君、石山君、柏倉君、帰寮。中條君の父さん訪問、中條君帰寮。齊藤君富並迄行く。夜茶話会、菓子の山をなせり。記入者不明故佐利記。

七月五日 水曜日 富樫廣三

天候、雨。作業、降雨の為休む。学科、ナシヨナルリーダー(三巻の組及一卷の組)、国語。遠田君と成沢君と

新官舎より来り、一同柔道を為す。雨上りの夕暮盛大なる茶話を催す。夕方中条君帰舎せり。

七月六日 木曜日 中條記

天候、曇。勞力、午前式拾壱人、午後式拾參人。作業、午前除草、(二字分空き)播種、午後同じく又新墾。炊事当番者、佐藤吉之助、中條。

七月七日 金曜日 菅原一路

天候、晴。勞力、午前式拾壱人、午後廿人。作業、午前新墾、午後新墾、堆肥積、佐藤(豊)、佐藤(吉)、松田、結城君の四名、大石田に肥料その他の物を運搬に。午後遠藤、武田君、迎へに行く。炊事当番、中條君、菅原。

七月八日 土曜日 齊藤太吉

天候、午前晴、午后雨。勞力、午前廿一人、午後休業。作業、午前新墾、午後休業。后後は木剣、後柔道、夕食は□〔餅?〕ばたもちや其の日の苦勞□びしか□。九時礼拝、寢床。炊事当番、菅原君、齊藤太吉。備考、高野先生、校用のため山形に出発せり。以上。

七月九日 日曜日 川崎記

天候、曇後雨。勞力、午前拾八人。作業、大神宮様の裏

の小豆及大豆に施肥後中耕。馬鈴薯の中耕の残りをやつた。午後拾七人で舎外の大掃除。蔬菜畑の除草や道路修繕草刈等、大層雨が強かつた、四時過ぎ。炊事当番、齊藤君、柏倉君。

七月拾日 月曜日 阿部英一郎

天候、晴。勞力、拾九人。作業、午前中の作業は前□、成沢、遠田、石山、結城、武田、阿部君等、草刈。後組は新墾をなす。午后は前組は堆肥積〔積〕をなす。後組は麦畑除草なり。中條君は家に帰り。炊事当番、柏倉君と川崎君。

七月拾一日 火曜日 佐藤利八

天候、雲少雨。勞力、拾六人半。作業、朝仕事、新墾をなし引続き午前中は新墾をなせり。午后稲きびの間引、並びに大麦畑の除草等なせり。五十嵐君と遠藤君と除草を集めて堆肥積みをなせり。

事項、森谷君、午前拾時頃農場来訪有り。尚武道日なれば午后三時三拾分頃作業を止め帰寮して武道をやる。所長殿御訪寮有りたり。夕の時習間に所長より有益なる修養訓話ありたり。所長の御土産あらね糖湯を戴きつ、。

所長滑川温泉の土産話をして豊大閣の青年時代の智物語の一節。其の物語りたるや血や躍進する程に面白く痛快!! 夜未だ更けざると思ふに、早拾一時をセコンドは報ぜり。礼拝消灯。炊事当番、川崎兄、阿部兄。以上。

七月拾貳日 水曜日 結城庫太記

天候、曇少雨。労力、拾六人。作業、午前草木刈七人、豆の中耕七人。森谷君新墾をなす。午后拾三人して新墾をなせり。所長森谷君成沢君遠田君は蔬菜の手中休後、三人も加はりて新墾をなせり。夜、新官舎の人々来訪ありて茶話会ありたり。菅原君、松田君の両名、楯岡に出張なす。無断帰宅せる。笹原君本日来る。第六期生工藤貞三君新入舎す。炊事当番、阿部君、佐藤(利)君、安達増三君、山形に帰る。

七月十三日 遠藤記

天候、晴。労力十七人。作業、午前新墾九人、草木刈八人。午後堆肥つみ九人、稲きびの間引並びに大麦除草八人。所長森谷君山形に帰る。山口君、工藤君、新入す。炊事当番、佐藤利八君、松田君。

七月十四日(金) 佐藤豊次郎記

天候、朝霧に包まれたれど聽て晴、後曇り。労力、十八人。作業、午前四人にて草刈り、他の十四人にて新墾、午後七人にて草刈並に堆肥積み、他の十一人にて豆の除草中耕。

事項、午后六時頃、稲垣助手、長谷川君、甘藷苗を背負つて来舎、苦勞を謝す。炊事当番、松田君、結城君。

七月十五日 土曜日 武田記

天候、曇り。労力、十四人。作業、朝仕事十四人ニシテ新墾、朝食后十人シテ引続キ新墾、四人シテ甘藷植ナシタリ。午后休ミ。品物品講〔購〕入ノ為大石田三人。炊事当番、結城君、遠藤君。

七月拾六日 日曜日 峯花記

天候、曇り。本日はまちにく〔ま〕ちたる旅行第一日目である。朝四時起床、六時出發しねごより三藤部農場に向へり。三藤部君より説明あり。昼食致し□しスーテシヨンに向へり。之れより泉田に行き軍馬補充部見学、種々農具の説明あり。汽車に遅れ新庄迄で徒歩。七時五分新庄発列車にて瀬見に向へり。瀬見にてABC屋に投宿、十時過ぎ寝につけり。以上。大塚君の大男、本日入

居す。

七月拾七日 齊藤

天候、曇。本日は六時起床、朝食后金式拾銭の茶話会あり。十一時出発、舟形駅にて大石田に向へり、柏倉君ハ病氣の爲め汽車にて高野先生は山形に出発。大石田より官舎に向へり、大雨に出会い大困り、官舎に付いたとき  
の□は□しに□はれ□。先づは早々敬具。

七月十八日 火 一路記

天候、晴。勞力拾九人。午前中全部新墾、大塚君除草。  
午后六人馬鈴薯播種、四人除草、外全部麦刈。炊事当番、  
佐藤豊君、遠藤君。石山君、笹原君帰省。以上。

七月十九日 牧村記

起床五時に晴乃日迎へ清き泉に洗面す。各自七時の朝食迄勉強せられた。八時に宿舎を出て農場に一寸休み。十二時迄新墾に取かゝる。船越先生は村山農学校に出張せられ、他佐藤吉之助君川崎光雄君は蔬菜園播種。佐藤豊治郎君、武田玄治君は炊事当番。松田秀治君は病身の爲開墾中止で帰た。午后は除草四名、麦刈十三人。五時半に実習卒へ帰路につく。六時半に夕食を食へ各自の入浴

有り。七時より勉強せられた九時に床に着く。

七月二十日 松田秀治

天候、晴。勞力、拾七人。作業、午前、新墾拾六人。僕一人馬鈴薯の花つみ。午后麦刈麦たばね、堆肥積除草を各々分担にてやる。午后六時切りあげて帰る。御飯を戴き入浴し柏倉君の御土産にて茶話会を催す。九時半礼拝して床に着く。此の日富樫君、柏倉君、帰寮さる。炊事当番、武田佐吉の両君なり。

七月二十一日 金曜日 結城庫太

天候、曇。勞力、二十一人。作業、午前中四人黍畑の除草、残全部新墾をなす。午後草刈八人、豆の中耕、残全部してなす。遠田君の兄さん視察に来る。炊事当番、佐藤吉之助君、菅原一路君。夕食後に茶話会を開く。午後十一時頃床につく。高野先生が午後十一時に帰り。

七月二十二日 土曜日 晴 遠藤記

天候、晴。勞力、二十一人。作業、午前中全部リ（マ）新墾ナリ。午後は五時頃迄武道、後六時頃迄柔道をして小豆牡丹餅とゴマ餅と御馳走になりました。結城君は家に帰る。原田君は馬を取に農場に来る。高野先生、

稲垣君、松田君、柏倉君四名、測量をやる。炊事当番、齊藤君、菅原の二名也。

七月廿三日 日曜日 佐藤豊治郎記

天候、晴、和風アリ。労力、二十一人。作業、農場測量三人、但シ午后官舎清潔、上方官舎ノ清潔三人、下方同上三人、鶏舎整理一人、道路ノ草刈其他全部。炊事当番、柏倉権次郎、斎藤多吉ノ両君。雑件、高野先生本日出張。

七月廿四日 月曜日 武田玄治

天候、晴。労力二十一人。作業、午前十八人新墾、午前三人草刈。午後モ新墾午後六人草刈。県知事地方課長、並郡長村長小学校長外随員等、所長案内ノモトニ視察キマシタ。所長滞在ス。佐藤正太君、大沼謙一君入舎セリ。炊事当番柏倉君川崎君。

七月廿五日 火曜日 富樫廣三

天候、午前晴、午后曇。労力、二十二二人。作業、午前新墾（朝仕事全員）、新墾十七人、草刈堆肥製造五人（朝食後）。午后刈木焼き及大豆畠除草二十人、草刈二人。炊事当番者、阿部英一郎、川崎光雄。

今日は火曜日なれば例の如く例日より少し早刻に実習を

終了し、一同武道及び柔道を為せり。夕刻、加藤、高野両先生、山ノ内の青年へ御講話を為さん為、山ノ内小学校へ出発せり。午后三時頃、佐藤正太君帰省す。

七月廿六日 水曜日 佐藤吉之助

天候、曇。労力、拾八人半。作業、后前全部新墾、后後金時中耕二人、陸稻除草四人。船越先生樋岡に行く。柏倉君松田、大石田に行く。齋藤太吉君病氣欠席。炊事当番、阿部英一郎、佐藤利八。

七月廿七日 菅原一路

天候、雨、晴る、を待ち農場に行く。労力十八人、船越先生ボンボナス作り、新墾一時半、雨の為中止。所長の訓話あり。午後、柔道木剣、大塚君負傷す。原田君、會田君入舎。富樫君帰郷。炊事当番、佐藤利八、長谷川文六君。

七月廿八日 金曜日 齊藤

天候、雨。労力十八人、午前中全部新墾、午后雨天の為め休業。木剣。今日佐藤豊次郎君帰形す。大塚君佐藤吉之助君足病の為め休ム。秋田県由利郡平沢町補習学校生来る。所長先生、山崎先生を出迎の為め大石田に行けり。

炊事当番長谷川君山口君。

七月廿九日 土曜日 柏倉

天候、雨。作業、降雨の為休み。記事、本日加藤所長山崎延吉先生お見えになり午后より山崎先生の有益なる講演をなし、午后三時半帰形す。尚其外農場視察として農学士早坂慎太郎氏、亀井田村長を始め村吏員、小学校長、農事実行組合長外有力者数名と共に来舎して即日帰宅す。炊事当番、山口康太郎、原田久蔵、松田秀治君の三名。

七月三十日 日曜日 川崎記

天候、雨後曇。労力、二十九人。作業、平沢ヨリ来タル十一人ト高野先生外四人計十六人、九時過ぎヨリ四時頃迄新墾、後農場巡リ。山ノ内ノ人ト一人炭焼キ。其ノ他ノ人ハ麦刈、整地等ノ種々。事項、午後ヨリ佐藤君ト柏倉ト二人御菓子買ニ行ケリ。夜ハ茶話会、高野先生ヨリ井之上サンノ話ガアツタ。炊事当番、原田君、松田君ノ二人。

七月卅一日 月曜日 阿部記

天候、曇り。労力、廿八人。作業、六人草刈堆肥積、外全部蕎麦蒔をなす。佐藤豊次郎君、原田君、阿部、三名

は大石田行なり。富並の六衛工御父様が牛にて唐箕、燕

麦官舎に当着す。菅原君は今日山形に行つて習日に家に帰る。佐藤久君、古澤源徳君二名は新入舎す。炊事当番、松田秀治君、結城庫太。

八月一日 火曜日 山口記

天候、曇、微雨肅々折々降る。労力、十六名。作業、午前中ハ稲垣君、成沢君、遠田君の三名は大根播き、他は蕎麦播き。午后は三時過ぎより新墾後の雑木を五ヶ所に焚く(木灰作り)。事項、朝、佐藤利八君、長谷川文六君、阿部英一郎君、川崎光雄君、佐藤吉之助君、斉藤太吉君の六名帰省。佐藤惣治郎君一名新入舎。炊事当番、結城庫太君、五十嵐光雄君。

天候、雲後雨 八月二日 水曜日 原田

労力、十七人。作業、三組に別かれて高野先生の組は六人ルーサン〔アルファルファ〕の除草追肥、燕麦播き、舟越先生の組は新墾地の薪焼きて木灰造り、稲垣の人の組はソバ播き準備。事項、大塚君が病氣にて休業。炊事当番、五十嵐光雄君、佐藤豊次郎君。

八月三日 木曜日 雨 □峰記



朝来の雨止まず西山も無く東山も見へず。午前中実習休業自習たり。本日高野先生帰省し午前七時発す。午食つゞがなくすませ□頃雨ようやく晴れたり。蓑笠に身を固め一時農場に入る。予記〔予期〕に反し雨なし。ソバ蒔き□新開地ノ根株の運搬並に焼灰の散布。炊事当番、五十嵐光雄、遠藤雄次郎君。

八月四日 金 古沢源徳

天候、快晴。労力、十五人。本日ヲ以テソバ蒔キ終了ス。祝トシテ馬鈴薯餅ノ御馳走デアツタ。大ヘンオイシイモノナリ。大塚君ノ病氣ニ医者ヲヨブ。炊事当番、柏倉権次郎、遠藤雄次郎君。

八月五日 土曜日 佐藤生

天候、晴。労力、十五人。本日四時半起床して朝仕事をなす。稍々有りて六時半朝食をなす。終りて又各自の仕事に取り□く。稲垣助手外七名は新墾にかゝる。舟越先生外三名は麦の調製なり。成沢君と遠田君の外一名は堆肥の切かへす。本日は昼□□した。官舎に来て昼食をなし、それより柔道をなす。終りて六時、餅なりき、御馳走様。七時半頃か高野先生と五十嵐君の父と相来る。炊

事当番、柏倉君と武田君。貝沼君入舎す。

八月六日 日曜日 伊藤惣治郎

天候、晴（和風あり）。労力、十二人半。作業、午前新墾七人、麦調製五人。午后杉の下刈（草刈）六人、麦調製五人。炊事当番者、原田君、武田君。今日は日曜日なれば例日より少し早刻に実習を終了す。尚、午前成沢君、遠田君、五十嵐君（光雄）、大塚君の四名帰省す（大塚君は病氣の為なり）。午后櫻井君入舎す。

八月七日 月曜日 松田秀治

天候、晴。労力、拾二人半。作業、午前杉の下刈十人、麦調製二人、午后堆肥積み八人、麦調製三人、陸稻除草二人。此の日の麦調製の人々には私は感謝します。炊事当番、原田古澤両君なり。夜は高野先生よりナシヨナルリーダの工を習ふ。午后九時礼拝して寝る。

八月八日 火曜日 遠藤雄次郎

天候、晴。労力九人。作業、午前杉の下刈八人半、午後三時迄麦調製、三時より新墾八人半。佐藤久君炊事当番で三時頃帰る。炊事当番、古澤君、佐藤君。大石田行き原田君、松田君。結城君、武田君、家用で帰る。中川君

午後入舎す。午後九時黙読終り。

八月九日 水曜日 柏倉

天候、降雨。記事、本日は降雨の為作業休み（原田九蔵君帰省）。炊事当番、佐藤久君、伊藤惣治郎君、大張り。

八月十日 木曜日 古沢生

天候、晴。労力、十人半。作業、全部シテ草刈り（午前）、午後堆肥積ミ。五十嵐（光）君登山帰りたり。武田君も帰舎す。夜は武田君の御土産菓子御馳走に相成つた。炊事当番、伊藤、松田君。

八月十一日 佐藤生

天候、雲。労力、十人。本日初終二至るまで草刈り。本日大場儀一郎君入舎セリ。炊事当番、松田君、遠藤君。

八月十二日（土曜日）伊藤惣治郎

天候、午前雨、午後晴。今日は朝仕事の日割なので、早朝農場へ出張せしが、大雨の為直に退却せり。其の後休暇。夕刻新官舎より稲垣君、大沼君、貝沼君来り、夕食を共にせり（御しるこ）。炊事当番、遠藤君、武田君。尚夜七時過ぎ原田君帰舎す。

八月拾三日（日曜）大場儀一郎

天候、晴。労力、十人。作業、午前草刈、午後麦の調製、農具舎の整理、鶏の運動場造作。炊事当番、武田、柏倉両君。夕飯後ナシヨナルリダーの講義あり。

八月十四日（月曜日）松田秀治

天候、曇。労力、九人半。作業、午前陸稲の下葉むしり、午后二人堆肥積み、七人半は鶏舎の土盛り。僕は大石田に行く。貝沼兄帰省す。梅津君新に入舎さる。炊事当番、柏倉、原田両君なり。今の夜、礼拝終り床に就くと江坂先生と安達君と御出になりました。

八月十五日（火曜日）遠藤雄次郎

天候、晴。労力、十二人半。作業、午前草刈、午後三時頃迄。草刈後五時半頃迄間引ソバ。午後測候所長農場に来て後、高野先生と帰る。古澤君炊事当番で帰る。大石田行柏倉君、井上君、大場君、新入舎す。炊事当番、原田君、古澤君。夜は測候所長一同茶話会し九時半頃眠る。

八月十六日（水曜日）武田記

天候、雲時々雨。労力、十四人。作業、午前ハ新墾十人、草刈四人、午後モ新墾十一人、草刈七人。朝は皇国運動せり。朝高野先生ノ訓示アリ。高野先生ハ北谷地ニ出張。

午後深松征之助君入舎。船越先生入舎せり。

八月十七日 木曜日 古沢

天候、曇時々雨来ル。勞力、作業、午前草刈五人、新墾六人、午後モ引キ続キ馬鈴薯掘リ一人(三時迄)。午後二櫻井中川君道路ノ除草。原田君私用ニテ帰家ス。結城君入舎ス。古沢足ニ腫物休業ス。炊事当番、佐藤、伊藤君ナリ。

八月十八日 金曜日 佐藤

天候、晴。勞力、十四人。作業、初終迄で十二人新墾。櫻井中川両君は午後より道路の草を取り方付く。古沢君は足に腫物出して休む。井上君も腹痛で休む。炊事当番、伊藤君、大場郎君ナリ。

八月十九日 土曜日 伊藤惣治郎

天候、晴。勞力、七人半。作業、午前(朝食前)新墾十四人、馬鈴薯掘一人。(朝食後)食前と同じ。今日は土曜日なれば例により午後休む。夕刻、新官舎より安達君、大沼君、櫻井君の三名来り晩食を共にし。(牡丹餅)。高野先生夜の八時頃北谷地より帰る。尚夕方、中川君帰形す。炊事当番、大場儀一郎君、梅津君。

八月廿日 日曜 大場儀一郎

天候、晴。作業勞力、十六人。

一、十二名にてカワラハンノ木を採取して堆肥を積む。  
一、四名にて鶏舎用土台石運搬。  
一、新墾地焼払。

一、午後一同にて寄宿舎前畑の整理。

黒田君来り高野先生大石田へ私用。夜青豆、とうきび(初物)にて舌つ、みを打つ。

八月廿一日 月曜日 梅津記

天候、晴。勞力、十八人。作業、十四人ニテ木材運搬、四人ニテ馬鈴薯掘り。木材運搬行、八人ハ馬鈴薯掘り、午馬鈴薯掘り十二人、馬鈴薯運搬共、大馬鈴薯三百貫、小馬鈴薯五十貫、柴焼キ六人。夜ハ英語ノ講義アリ、九時礼拝シテ就床。

八月廿二日 火曜日 大場義一

天候、晴。勞力、二拾四人。作業、午前、開墾及馬鈴薯收穫(朝仕事をも含む)、午后、馬鈴薯收穫、木材、杉皮運搬、鶏舎敷地整理。

雑件、北谷地青年二名、本場訪問。夕、長谷川文六君来

舎。西官舎合併盛大なる茶話会を開く。総人数二拾有八名（佐藤、茨城、遠田の諸兄よりの土産によつて）。尚ほ夕餉には南瓜めしの饗応ありたり。炊事当番、井上幸之助、深松征之助。

八月廿三日 火 井上幸之助

天候、小雨。労力、廿三名。作業、午前、新墾及び馬鈴薯收穫、午后、馬鈴薯運搬、菜豆〔インゲンマメ〕小屋の收穫、鶏舎敷地の整理。雑件、原田九蔵君の入舎、朝高野先生の訓話有り、桜井君の帰形ス。夕餉ニソウメンノ饗応有り。炊事当番、黒田君、深松君。

八月廿四日 木 深松征之助

天候、風雨。労力、廿三名。作業、午前朝早くより小豆引き、全名一同にて七時半頃迄で。八時頃より強雨の爲今日一日全名一同休み。雑件、川崎光雄君入舎、夕は南瓜に小豆におしる有り。食後川崎君の土産頂戴致したり。炊事当番、黒田君、松田君の両名。

八月廿五日 金 黒田辰男

天候、風晴。労力、廿三名。作業、新墾及び鶏舎の立舞、  
□業築き、午后五時作業止み。雑件、朝礼拝の時高野先

生よりの訓話有り。船越先生午前の六時頃山形の講習所に向ふて出発せらる。名餉には萩丹餅のお馳走有り。此の萩丹餅は本日の鶏舎建立祝として高野先生よりのお馳走なりと。炊事当番、松田君、茨木君。

八月二十六日 土曜日 松田秀治

天候、雨、今日は朝より雨が降るので昼迄は休んだ。午后農場に行きほしてあるさ、げの実をいだ。又大神宮様の裏の畠の小豆も石灰かます。五六ツもいだ。それから杉皮を川より上げて□した。礼拝する前に甘藷のつる返しをやりて西瓜一きれづつ喰べて帰つて来た。明日は山形行だ。人々はそれぞれ仕度に取掛つておる。夕飯戴く時、佐藤豊次郎君が一人の友人をつれて新に入舎されました。夜は佐藤君、安達君の御みやげにて茶話会を催されました。高野先生の御話を承り終つて床に就いたは十時でした。安達君、西郷村西根迄御足労を煩はす。炊事当番、茨木、結城両君ナリ。

八月廿七日

加藤先生洋行送別講演会へ出席シ為、一同山形講習所へ  
参ル。四日間ノ講演終了シ、九月二日農場へ帰ル。当日

ノ在舎人員十五名。(八月二十八日〜九月二日分は欠)

九月三日 日曜日 松田秀治

天候、晴。勞力、拾三人。作業、午前新墾、午后きんとき菜豆調製、小豆収穫す。あがりの際母の仮植す。五時半しばをせおつて帰る。晩はしるこであつた。炊事当番、結城兄と僕なり。

九月四日 月曜日 結城庫太

天候晴天。勞力拾人。作業、午前麦畑の打起し六人。炭焼手伝一人、大田君九時頃に帰へる。午後陸稲の収穫二人、残全部して金時、小豆の調製。事項、菅原君、大石田行き、技術員一行二十名来場す。柏倉、大田両君帰省す。炊事当番、佐藤豊次郎君と僕。

九月五日 (月曜日) 遠藤雄次郎

天候、晴天。勞力、三十二人。作業午前十一人であづきもぎ、二十一人で新墾、午后三時迄午前と同じ、三時よりに帰る。炊事当番、佐藤豊次郎君、菅原一路君。大場儀一郎君、午后家より帰る。森谷君農場に行き、高野先生と二人山形に帰る。高野先生は用があつて行く。夜は九時頃眠る。

九月六日 火曜日 佐藤豊治郎

天候、午前曇、午後降雨アリ。勞力十三人。作業、午前中、馬鈴薯畑耕耘八人、キントキ収穫三人、黍収穫二人。来信、安達君宛葉書一枚、朝日新聞五日分。炊事当番、菅原一路、柏倉権次郎。雑件、本日降雨の為メ三時頃ニテ作業中止シ御盆ノ慰勞トシテ休ム。夕食前大場儀一郎、遠藤御両君ノ御土産ニ学校ノ農場ヨリ収メタル西瓜、小豆等ニテ茶話会ヲ開ク。

九月七日 水曜日

天候、後前〔午前〕雲、後々雨。勞力十二人。作業、後前全部耕耘、後々休み。炊事当番、結城君、佐藤久君の二名、菜の間引をなす。本日柏倉君私用にて帰る。後後に安達君農場に帰る。

九月八日 木 井上記

天候、雨模様。勞力十三人。作業、麦畑耕耘、稲黍玉蜀黍収穫。炊事当番、佐藤久君、大場義一郎君。雑件、安達君佐藤君の入舎あり。

九月九日 金 大場儀一郎

天候、曇り、勞力、十五人。作業、麦畑耕耘。炊事当番、

大場郎、大場。玉蜀飯、馬鈴薯だんご、共に結構なり。  
午後武道。

九月十日 曇り 午後雨 鈴木記

労力、拾五人、作業、麦畑耕耘、午後鶏舎造り、後休み。  
炊事当番、大場君、井上君。夜食前玉蜀及干餅の御馳走あり。

九月十一日 曇り 午後雨 佐藤昌一記

労力十四人。作業、麦畑耕耘、午後玉蜀の収穫。武田君  
来舎。炊事当番、井上君、鈴木君。夜武田君の土産なる  
ピスケツトを馳走になる。

九月十二日 火曜日 松田秀治

天候、午前晴、午后曇。労力、拾五人。作業、午前耕耘、  
午後小豆、金時さ、げの調製、午后三時半ひきあげて帰  
り武道木剣をやりました。晩には玉蜀団子の御馳走であ  
つた。炊事当番佐藤昌一君に鈴木君。

九月十三日 水曜日

天候、曇少雨。労力、拾五人。作業、午前麦畑の整地四  
人、再墾拾人、舟越先生は薪仕末。午後全部して唐黍、  
菜豆の調製、及び稲黍の収穫。陸稲、刈取……、舟越先

生と遠田君、成澤君の三名。五十嵐正蔵君帰舎す。炊事  
当番、佐藤昌一君、松田秀治君。

九月十四日 木曜日 遠藤雄次郎

天候、曇少雨。労力、拾六人。作業、午前拾四人は再墾、  
麦畑の二人は麦畑の整地。午后拾二人は麦畑の再墾後新  
墾。三人は陸稲刈、午后から一人いなきび調製。炊事当  
番、松田秀治君、結城庫太君。柏倉君入舎す。

九月十五日 金曜日 佐藤豊治郎

天候、曇後晴。労力、十六人。作業、午前中小豆収穫及  
新墾、全員にて。午後小豆ノ莢挽ぎ。炊事当番、結城庫  
太、遠藤雄次郎両君。雑件、本日夕食より新猷立表によ  
る。

九月十六日 土曜日 武田

天候、曇。労力十一人。作業、午前中小豆扱取、新墾。  
午後休みデ武道。炊事当番、遠藤、佐藤豊次郎両君。雑  
件、井上幸之助、大場儀一郎。大場義一、佐藤久、帰郷。

九月十七日 日曜日 佐藤吉之助

天候、曇。労力、拾二人。作業、前新墾、後下官舎、畑  
耕耘、除草、四時半迄。炊事当番佐藤豊次郎、武田玄治。

雑件、菅原一路、松田秀治、帰郷。高野先生、稲垣助手、  
帰舎。

九月拾八日 月曜日 佐藤利峰

天候、秋の空には珍しき日本晴。労力、拾四人半。午前、  
午后を通じて麦蒔準備、施肥、播種せり、但し小麦なり。  
炊事当番、武田玄治、佐藤吉之助両兄。雑件、本日昼食  
の折、冬瓜の生食を試みたり。水分多くして味甚だ佳な  
りき。以上。

九月十九日 火曜日 鈴木記

天候、晴。労力、拾式人半。作業、麦蒔、午後四時ヨリ  
武道。炊事当番、佐藤利八君、佐藤豊次郎君。佐藤吉之  
助君、大石田町へ買物。夜芋団子と天プラの御馳走アリ。  
九月二十日 水曜日 結城記

天候、雨。作業、雨の為め休み。炊事当番、佐藤吉之助  
君、佐藤利八君。船越先生、佐藤昌一君帰省す。

九月二十一日 木曜日 遠藤記

天候、大ナル風。労力、拾四人半。作業、午前午后麦蒔。  
炊事当番、佐藤利八君、鈴木君。午后から富樫君、松田  
君入舎す。富樫君、松田君の二人より御菓子御馳足〔馳

走〕、夜九時終る。

九月廿二日 金曜日 佐藤豊治郎

天候、曇、時々小雨アリ。労力、十四人。作業、午前中  
きんときノ後作トシテ大麦播種（堆肥運搬作条立テ施肥  
播種覆土共）及新墾地に小麦播種ノ準備（畦立堆肥運  
搬）。午後新墾地へ小麦播種。炊事当番、鈴木謙二、松  
田秀治ノ両君。雑件、本日成澤君風邪の為休ム。

九月廿三日 土曜日 柏倉

天候、曇り。作業、本今朝仕事、午前八時迄人員十五名。  
記事、午前十時ヨリ生徒佐藤豊治郎君外九名、船越先生  
引率ノ上、最上郡折温泉へ向ツテ出発、滞在。高野先  
生公務ノ為山形へ。安達助手、一寸来場セシモ即時二帰  
ル。留守当番、下方官舎―稲垣助手、柏倉。上方官舎―  
遠田、成澤。

九月廿四日 日曜日（祭日） 柏倉

天候、曇り。記事、ナシ。

九月廿五日 月曜日 柏倉

天候、曇り。記事、滞在中の（肘折行）船越先生外十名、  
午后六時無事帰舎ス。結城君、佐利君途中ヨリ帰宅。



九月廿六日 火曜日 武田玄治

天候、曇り。労力十一人。作業、午前ヨリ午後三時迄大  
麦種蒔キ。記事、高野先生ガ出張。炊事当番、遠藤雄次  
郎君、佐藤豊次郎君。

九月廿七日 水曜日 富樫廣三

天候、曇。労力十人。作業、蕎麦収穫。炊事当番、佐藤  
豊次郎、武田玄治。高野先生、佐藤利八君、結城庫太君  
来舎。舟越先生山形へ出発。

九月廿八日 木曜日 佐藤吉之助

天候、雨。雨故に自由自修習。炊事当番、武田玄治、富  
樫廣三。

九月二十九日 金曜日 佐藤利蜂

天候、雨、寒し、風も強し。労力、拾二人半、病氣にて  
欠席者二名。午前、午后、金時小豆選別、鶏舎金網あみ  
とす。炊事当番、富樫廣三君、佐藤吉之助君。特別記入  
無し。

九月三十日 鈴木記

天候、曇り。労力、拾三人。作業、蕎麦収穫。炊事当番、  
佐藤吉之助君、鈴木。本日高橋薫太郎君入舎。

十月一日 日曜日 高橋

天候、曇り后雨。労力、拾人。作業、堆肥運搬、麦の播  
種。雑件、午前新戸部農場より本場を訪る。晚餐は兎汁  
に舌鼓を打つ。炊事、佐藤利八、高橋薫太郎。雑件、富  
樫、松田の両氏大石田行き。鈴木謙二君帰宅。午后五十  
嵐君入舎。夜佐藤豊次郎君より梨。五十嵐君より氷砂糖  
を馳走になる。

十月二日 火曜日 松田

天候、午前曇り、午后時々小雨あり。労力、拾三人。作  
業、蕎麦刈。炊事当番、高橋薫太郎、松田秀治。今日午  
后六時、齋藤多吉君入舎す。

十月三日 火曜日 結城

天候、午前曇、午後晴。労力拾三人。作業、新墾八人、  
ルーサン畑の除草二人、木切三人。炊事当番、松田秀治、  
結城庫太。佐藤豊次郎君大石田に出張す。

十月四日 水曜日 遠藤

天候、晴。労力、拾三人。作業、午前七人新墾、四人木  
切、二人大豆の葉取、午後おなじ。齋藤多吉君足痛の為  
休業。炊事当番僕と結城君。大塚君と佐藤昌一君入舎す。

十月五日 木曜日 佐藤豊治郎

天候、晴、和風あり。労力、十五人。作業、午前中、官舎北方の馬鈴薯収穫三人、新墾、其他全部。午後蕎麦調製三人、外新墾。炊事当番、遠藤雄次郎、佐藤豊治郎。雑件、本日斎藤多吉君足痛し為休む。長谷川文六君新に入舎す。本日は豆明月の印に南瓜団子及豆ゆでの馳走あり(夕食及晩)。

十月六日 金曜日 武田玄治

天候、曇。労力、十四人。作業、午前豆の葉取四人、外木切蕎麦調製金時選、小麦踏ミ、午后新墾七人、外木切金時選、農具舎整理ナリ。炊事当番、佐藤豊次郎、武田玄治。今日午后四時江坂さん入舎せらる。夜は御ミヤゲのビスケット馳走ニナル。

十月七日 土曜日 富樫廣三

天候、雨。労力、十六人。作業、新墾、小豆選り、農具舎整理。炊事当番、武田玄治、富樫廣三。

十月八日 日曜日 佐藤吉之助

天候、雨、西北強風。作業、休。炊事当番、富樫廣三、佐藤吉之助。雑件、佐藤利八、結城庫太、帰郷ス。西村

山郡北谷地ヨリ松田次郎外伍人。

十月九日 月曜日 斉藤太吉

天候、晴。労力、十四人、一人病キ、一人炊事。作業、新墾拾一人、外三名陸稲稲刈取。雑件、松田時郎君、江坂君帰形ス。白鳥郵便局長来場、山の内区長同道ニテ。炊事当番、佐藤吉之助、斉藤太吉。

十月拾日 火曜日 佐藤利八記

天候、雨、但し午后。労力、七人半。作業、新墾、伐木、其他。炊事当番、斉藤太吉兄、佐藤正一兄。午后入舎者、結城庫太兄、鈴木謙治兄、佐藤利蜂、右三名な□□。

十月十一日 水曜日 長谷川記

天候、雨時々降る。労力、十四名。作業、測量六人、伐木五人

そば刈りきび刈を残りの人にてす。今日も朝より雨降りなので出発は九時頃なりき。作業一時間もせずして強雨降ら□□止める。一休して昼食をして帰る。後より降りに付き休み。炊事当(当番)佐藤昌一君、松田氏、佐藤豊次郎君は所用にて山形に行く。櫻井君と山形の某は

下山す。今日は実に寒い。葉山に降雪す。

十一月〔十月〕 十二日 木曜日 佐藤昌一

天候、雲、少々雨あり。労力、午前、今にも大雨の来らんとするが如き天候なれば、模様を見つ、してゐる内、昼となる。作業後、陸稲刈り六人、蕎麦刈り五人、水田作り三人。計十四人。炊事当番、松田君、結城君。船越先生、菅原君来場。

十月十三日 金曜日 鈴木記

天候、晴。労力、拾四人。作業、陸稲刈り、蕎麦刈り、粟調製、蕎麦調製。炊事当番、遠藤君、結城君。本日、佐藤吉之助君、富樫君、菅原君、帰宅ス。

十月十四日 土曜日 松田秀治

天候、晴。労力、十二人。作業、午前蕎麦刈九人、新田造り三人、午后蕎麦刈九人、新田造り三人なり。炊事当番、遠藤雄次郎齋藤多吉。今日の晩は甘薯餅結構なり。午后八時過ぎ山口康太郎兄入舎さる。

十月十五日 日曜日 結城記

天候、晴后曇。労力、十四人。作業、蕎麦刈拾人、午前架造り三人、甘薯収穫壹人。后燕麦刈三人、蕎麦刈甘薯

収穫、午前と同じ。炊事当番、齋藤多吉、佐藤利八。記事、武田玄治、佐藤豊次郎、入舎ス。

十月十六日 遠藤記

天候、晴。労働、十三人。作業、午前六人大豆こづき、七人燕麦刈、午后五人大豆こづき、四人甘薯収穫、四人大豆のはせかけ。炊事当番、長谷川君、佐藤(利八)君。午后より十人入舎ス。

十月十七日 火曜日 佐藤豊治郎

天候、晴。労力、二十七人。作業、麦の土入、炭焼き、大豆乾燥。炊事当番、山口康太郎、長谷川文六、富樫広三、松田秀治、佐藤豊治郎。雑件、午後七時より在所生懇談会開催。二三之協議問題に就き相談し、尚長期旅行の打合せをなす。茶話会了りて十時半頃閉会。夕食は試食会として御汁粉の馳走あり。

十月十八日 水曜日 武田記

天候、雲。労力、十六人。作業、陸稲取入れ、燕麦乾燥、水田造り、甘薯収穫。炊事当番、山口康太郎、鈴木鎌二。

十月十九日 木曜日 富樫廣三

天候、雨。労力、十三人。作業、午前十時頃より舟越先

生、佐藤豊次郎君、結城庫太君、伐根機を持つて来るべく大石田へ行く。午后一同農場へ出発。水田作り、甘薯収穫、炭の木切り。炊事当番、鈴木謙二、梅津惣左衛門。長谷川文六君休業。江坂さん、稲垣さん、大塚君と共に、前二者は山形へ、大塚君は故郷へ帰らる。

十月廿日 金曜日 齊藤太吉

天候、曇。労力、拾參人。作業、水田造り四人、木切、萱刈、里芋収穫、道路造り。炊事当番、梅津君、松田君以上。

拾月拾一〔二十一〕日 木曜日 佐藤利蜂

天候、雲りなり。労力は拾式人半なり。作業、水田四人なり、炭木切り三人半なり、萱刈り二人なり、大根乾し大豆はせ掛け等、外雑件三人なり。炊事当番、松田秀治兄、結城庫太兄の二名なり。帰省者、山口康太郎兄。帰寮者、阿達助手殿。外、五十嵐光男兄なり。雑件、里芋餅の試食ありました。

十月廿二日 日曜日 梅津記

天候、晴。労力、十四人。作業、大豆引き六人。陸稻扱三人、蕎麦打四人、杉苗取り二人。炊事、結城庫太、五

十嵐光雄。以上。

十月廿三日 月曜日 鈴木記

天候、晴。労力、十四人。作業、杉植三人、蕎麦調製三人、陸稻調製三人、貯蔵穴掘り五人。炊事、佐藤豊、五十嵐、二人。本日斎藤太吉君帰宅。本日佐藤吉之助君入舎、以上。

十月廿四日 火曜日 松田記

天候、晴。労力、拾二人半。作業、麦の土入六人半、稲扱三人、新田作り三人。炊事当番、佐藤豊次郎、遠藤雄次郎の両兄で、晩には金時飯で結構なり。

拾月廿五日 水曜日 結城記

天候、曇。労力、拾壹人半。作業、麦の土入四人半、水田作り四人、稲扱き三人。炊事当番、遠藤雄次郎、武田玄治。雑件、佐藤豊次郎帰省す。石山長右衛門、大沼謙一入舎す。

拾月二十六日 木曜日 五十嵐光雄

天候、雨。労力、十人、作業、縄ナヒ、五十嵐（庄）豆選り。炊事、武田君に富樫君。結城庫太君帰省。  
拾月二十七日 金 遠藤雄次郎

天候晴天。作業、水田四人、麦土入五人、陸稲調製三人、  
労力十二人。炊事、佐藤（吉）君、富樫君。「上部余白  
に「森谷君入舎」とあり」

二十八日 土 武田玄治

天候、晴。作業、炭木切六人、穴掘四人、炭焼四人、炭  
俵アミ一人。労力、十六人。炊事当番、佐藤君と佐藤君。  
牡丹餅の御馳走あり。

十月廿九日 日曜日 富樫廣三

天候、雨。作業、樋岡より松苗運搬十二人、炭焼き三人。  
労力、十五人。炊事当番者、佐藤利八、石山長右衛門。

高野先生入舎、松苗植の為七期生十人入舎、夜茶話会開  
催。

十月三十日 火曜日

天候、晴。労力、二十五人。苗木取四人、長薯掘り四人、  
下刈十人（松苗木植所）。炊事当番、石山長右衛門、大  
沼謙一。

拾月三拾一日 水曜日 佐藤利蜂

天候、晴、午后雲かげ二、三片浮かびあたり。労力合計  
二拾□〔四か六〕人五分なり。松苗木植所地の下刈りの

外午后四時頃より三百本許り植初めたり。拾四人半なり。  
松苗木植地に行く道路の伐木三人なり。大豆脱ハ外三人  
なり。杉苗補植四人なり。炊事当番者、大沼謙一兄、梅  
津惣右衛門兄。雑件、朝例の如く起き出で、禊するに天  
麗かにはれ渡りて、山鴉三羽南の空にほがらかに啼き過  
ぐを目撃せり。朝の礼拝の時、高野先生から「本日は天  
も麗かに晴れ渡しまして吾等日本人として最祝福すべき  
天長祝日であるとの佳日を以て、吾が農場に於ては第七  
期生の記念植林事業を執行し下さるとは誠に誠に欣喜に  
堪えざる所なり。やがて今日幾拾年の后には老松青々と  
滴る許り。弥栄に繁るを見るでせう」と簡潔に結んだ。  
成澤喜代太郎兄、森谷壮吾兄、帰形せり。午后三時頃土  
屋福蔵兄帰省せり。晩食ハ鶏肉汁なしき。高野先生の□  
菓の御馳走なしたり。今年に於ける開墾地生活として最  
「月影踏みて帰りけにけり云云」の味に徹底した日では  
ありませんまいか？ 昨晚より今朝にかけて我が読みし本  
の中より私が総括して得たる歌を一つ乱筆にて描いて見  
んか？

「如何にせん生ける吾が身の胸傷み 免かれ得ざる千々

の感激」

五七七七七と続いた丈けです。御笑覧下らば幸甚。

拾一月一日 水曜日 大沼記

天候、雨、午前中は曇天、夕晴る。労力、二十四人。昨日に引続き松苗の植付けを為す。午后三時了る。後、伏焼中の炭の採掘並に燕麦荷造りを為す。炊事当番、梅津君、鈴木君。夜は黍餅の腹を抱きつ、読書す。

拾一月二日 木曜日 梅津

天候、雨。労力、午前十七人、午後十六人。作業、午前松植付十二人、杉植付四人、俵編一人。松植付中途ニシテ雨トナリ中止、後杉植付二八人、松苗選り別ケ五人。午前農具舎及宿舎片付ケ、尚、五人程松苗仮植。炊事、鈴木君、松田君。五十嵐君行衛不明。

十一月三日 鈴木記

天候、午前雨、午后晴。労力、十五人。作業、杉植付、貯蔵穴掘り、雪囲ヒ、大豆収穫、とろ、芋掘。炊事当番、松田君、結城君、高野先生、石山君、焔舎。

十月〔十一月〕四日 土曜日 松田記

天候、晴後曇り小々の雨。労力、十四人。作業、いもほ

り、杉植、穴掘り、第一官舎の雪囲等。炊事当番、五十嵐君、結城君、茨木君。今日の昼過ぎ五十嵐正蔵がお父さんにつれられて来た。

拾月〔十一月〕五日 日曜日 結城記

天候、曇。労力、拾四人。作業、大豆調製、穴掘り。炊事当番、五十嵐光雄、武田玄治、茨木操六。雑件、江坂書記、成沢君より馬借りて来た。石山長右衛門、山ノ内に出張す。遠藤雄次郎、阿部英一郎帰宅す。夜、江坂書記の指導の下に唱歌練習。